

請願文書表 第十四號 軍人恩給法規中改正ノ請願書摘要

明治四十四年法律第五十九號ヲ以テ軍人恩給法ヲ改正セラレタルモ改正ノ恩典ハ同年三月三十一日以前ニ現役ヲ離レタル者ニ及ハス然レトモ恩給ヲ受クル事由カ改正法施行ノ前後ニ生シタルニ因リテ恩遇ヲ異ニセラルルノ理ナキノミナラス請願人等ハ其ノ恩典ニ浴スル者ト同様ニ體面ヲ維持スルコト困難ナルニ依リ之ヲシテ同一ノ恩典ニ浴セシメラレタシ

(附記) 本分科會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス  
○主查男爵原口兼濟 速記ノ中止ヲ命ス  
(速記中止)

○主查男爵原口兼濟 請願文書表第一回報告ニ載録シタル請願書中本分科委員擔當ノモノヲ逐號問題ト爲シ會議ニ付ス

○審查未了ナルヲ以テ議決ヲ後會ニ讓リタル請願書左ノ如シ

- 第一號 軍人恩給法規中改正ノ件 第二號 同上
- 第三號 同上 第四號 同上
- 第五號 同上 第六號 同上

- 第七號 同上 第八號 同上
- 第九號 同上 第十號 同上
- 第十一號 同上 第十二號 同上
- 第十三號 同上 第十四號 同上
- 第十五號 同上 第十六號 同上
- 第十七號 同上 第十八號 同上

○主查男爵原口兼濟 散會ヲ命ス  
散會 午前十一時十五分

第二回 大正四年六月一日

出席委員

主查 男爵 原口 兼濟	委員 子爵 樺 筭 隆 督
同 子爵 立花 種 忠	同 男爵 阪 井 重 季
同 男爵 勝田 四方 藏	同 男爵 梨 羽 時 起
同 橋 清治 郎	同 橋 本 辰 二 郎



出席政府委員

鐵道院副總裁

古川 阪次郎

開會 午後一時二十分

○主査男爵原口兼濟 開會ヲ宣告シ請願文書表第三十號大湊鐵道速成ノ件、同第三十一號四國循環鐵道速成ノ件、同第九十九號上越鐵道速成ノ件、同第百號北海道留萌增毛間鐵道速成ノ件及同第百五號山陰鐵道中濱田線並津和野線速成ノ件ヲ問題ニ供ス

(參照)

請願文書表 第三十號 大湊鐵道速成ノ請願書摘要

青森縣野邊地驛附近ニ於テ東北本線ヨリ分岐シテ大湊ニ至ル鐵道ノ敷設ハ建設費ヲ要スルコト少キニ拘ラス産業上並軍事上多大ノ利益アルヘキヲ以テ之カ施工ヲ議院ニ請願セシコト數回ニ及ヒ既ニ其ノ採擇ヲ得タルニ拘ラス未實行セラレサルハ地方人民ノ甚遺憾トスル所ナルヲ以テ最近ノ時期ニ於テ同鐵道ヲ敷設セラレタシ

請願文書表 第三十一號 四國循環鐵道速成ノ請願書摘要

四國ハ交通不便ニシテ鐵道敷設ノ急要ヲ認ムルコト切ナルモノアルニ拘ラス他地方ニ比シ

テ却テ未成線ノ多キハ甚遺憾ナルヲ以テ高松小松島間池田須崎間多度津古町間古町下田間及須崎下山間ノ線路ヲ急設セラレタシ而シテ之カ速成ヲ望ムヘカラストセハ一定ノ條件ノ下ニ此等ノ線路ノ私設ヲ許可セラレタシ

請願文書表 第九十九號 上越鐵道速成ノ請願書摘要

群馬縣前橋市ヲ起點トシテ新潟縣南魚沼郡及北魚沼郡ヲ經テ長岡市ニ至ル上越鐵道ノ敷設ハ政府其ノ必要ヲ認メ又議院之カ請願ヲ採擇セラレタルモ未工事ニ著手セラレス斯ノ如キハ管ニ一般ノ交通上並軍事上不利益尠カラサルノミナラス沿線地方ニ於ケル産業ノ發達上遺憾甚大ナルヲ以テ政府ヲシテ速ニ鐵道敷設法ノ改正案及必要ノ豫算案ヲ提出セシメ以テ之ヲ施工セラレタシ

請願文書表 第百號 北海道留萌增毛間鐵道速成ノ請願書摘要

政府ハ北海道留萌增毛間ノ鐵道ヲ敷設スルノ必要ヲ認メ前期議會ニ提案セラレタルモ衆議院ノ解散ニ依リテ其ノ目的ヲ達セス增毛町民ノ苦痛ハ特ニ甚シキモノアルヲ以テ大正五年度ニ於テ之カ工事ニ著手セラレ速ニ其ノ完成ヲ期セシメラレタシ

請願文書表 第百五號 山陰鐵道中濱田線並津和野線速成ノ請願書摘要



山陰縱貫鐵道敷設工事ノ進捗セサルハ地方産業ノ發展上遺憾尠少ナラサルヲ以テ仁万驛以西馬路温泉津黒松ノ各驛ヲ經テ淺利驛ニ至ル區間ハ本年度ニ於テ之ヲ起工シ又淺利濱田兩驛間ノ工事及津和野方面ヨリ篠目隧道ニ至ルノ工事ハ之ヲ來年度ヨリ著手セラレ以テ速ニ完成セシメラレタシ

○委員橋本辰二郎 文書表第三十號ノ請願ハ野邊地ヨリ大湊マテ鐵道ノ敷設ヲ希望スルモノナルカ大湊ハ軍港ニシテ樞要ノ地ナリト信ス此ノ間ノ鐵道ニ關シテハ當局者ハ既ニ十分ノ調査ヲ遂ケラレタルモノアラム其ノ詳細ヲ説明アラムコトヲ求ム

○政府委員古川阪次郎 本線ノ鐵道ハ本年度ヨリ著手スル豫定ニシテ此ノ里程三十七哩五十六鎖其ノ經費三百萬圓ヲ要ス後日本線完成スルノ曉ハ營業ノ狀況ハ收支償ハスシテ却テ損失ノ生スル見込ナリ然レトモ質問セラルル如ク該地ハ軍港トシテ重要ノ地ナルヲ以テ此等收支ノ關係ハ暫ク之ヲ措キ至急之ニ著手スル豫定ナリ

○委員橋本辰二郎 幾年ヲ要スレハ其ノ完成ヲ見ルヘキヤ

○政府委員古川阪次郎 工事豫定通ニ進行スレハ大正十一年度ニハ完成スヘシ

○委員橋本辰二郎 本年ヨリ十一年度迄トスルトキハ其ノ間八箇年ナリ僅ニ四十哩弱ノ線路

ニ八箇年ノ日數ヲ要ストハ餘リニ長期ナラスヤ一旦著手セラレタル以上ハ速ニ之ヲ完成セシメ以テ土地人民ノ便利ヲ計リ且ハ政府モ其ノ收入ノ時期ヲ速ナラシムル方利益ナラスヤ

○政府委員古川阪次郎 御說ノ通ニ著手進行シ得ムコトハ凡テニ好都合ナリト雖經費ノ關係上其ノ遲速アルヲ免レス

○委員男爵梨羽時起 四國循環鐵道敷設ニ關スル請願ハ其ノ願意非常ノ大規模ナリ政府ハ之ニ對シ如何ナル所見ヲ有セラルルヤ

○政府委員古川阪次郎 本鐵道ハ非常ノ大工事ナルカ故ニ近キ將來ニ於テ之ヲ敷設スルコトハ或ハ不可能ナラム且一小部分ノ私設ヲ許可シタル所アリト雖大體ニ於テ私設ハ許可セサル豫定ナリ殊ニ政府ノ豫定線ニ屬スル部分ヲ變更セムトスルニハ帝國議會ノ協贊ヲ要ス故ニ本席ニ於テ今何レトモ之ヲ明言スルコト難シ

○委員子爵立花種忠 文書表第百號ノ請願ハ此ノ文意ニ依ルトキハ留萌増毛間ハ政府モ之ヲ敷設スルコトニ計畫セラレ從テ土地人民ハ附近ノ土地ヲ買入レ或ハ家屋ヲ建設スル材料等ヲ用意シタリ然ルニ中途政府ニ於テハ其ノ計畫ヲ廢止セラレタルニ依リ甚シキ悲境ニアル



ヲ以テ至急建設セラレタシトノ趣旨ニ見ユ政府ノ見ル所如何

○政府委員古川阪次郎 土地ノ人民ハ或ハ請願ノ趣旨ノ如ク其ノ建設ヲ豫期シテ多少損失ヲ蒙リタル者之レアリヤ計リ知ルヘカラスト雖其ハ已ムヲ得サルコトニシテ詮ナキナリ

○委員男爵阪井重季 上越鐵道ハ之ヲ敷設スル豫定ナリヤ又豫定アリトスレハ政府ノ之ニ對スル計畫如何

○政府委員古川阪次郎 政府ニ於テハ上越鐵道敷設ニ付テ何等豫定スル所ナシ從テ説明スヘキ材料ヲ有セス本線ニ付テハ一回測量シタルコトアリト雖是レ決シテ説明スヘキ程ノモノニ非ス

○委員男爵阪井重季 然ラハ該地ノ交通ハ如何ニスル考ナリヤ

○政府委員古川阪次郎 政府ニ於テハ何等計畫ナシト雖本線ハ既ニ私設會社ノ敷設許可ノ出願アリ尙他ニモ之ヲ目的トシテ私設會社ヲ發起スル者アリト謂ヘハ或ハ此等ノ會社ヲ合併セシメテ其ノ敷設ヲ許可セムト考慮中ニシテ此等ノ出願ヲ待チツツアル次第ナリ

○委員男爵勝田四方藏 山陰鐵道ハ出雲今市ヨリ山口迄敷設スル計畫ナリト聞ク是ハ如何ナル年度割ニシテ敷設スルモノナリヤ又此ノ工事ニハ著手シツツアルカ其ノ狀況如何

○政府委員古川阪次郎 工事著手ノ順序ハ一方ハ島根ヨリ一方ハ山口ヨリ其ノ歩ヲ進メ中途ニ於テ出會セシムル豫定ナリ

○委員男爵勝田四方藏 完成ノ豫定年度ハ何年ナリヤ

○政府委員古川阪次郎 萩線ヲ併セテ大正十五年度ニテ之ヲ完成スル豫定ナリ

○委員男爵勝田四方藏 濱田港或ハ江川附近ヨリ工事ニ著手シテ材料ヲ其ノ地方ヨリ陸揚スルト爲シテハ如何

○政府委員古川阪次郎 建設費ニ餘裕ナキカ故ニ其ノ兩方ヨリ著手スルヨリ外ニ良法ナシ

○主査男爵原口兼濟 前會ニ於テ審査未了ナリシモノ及請願文書表第二回報告ニ載録シタル請願書中本分科委員擔當ノモノヲ逐號問題ト爲シ會議ニ付ス

○議院ノ會議ニ付スヘシト議決シタル請願書左ノ如シ

第一號	軍人恩給法規中改正ノ件	第二號	同上
第三號	同上	第四號	同上
第五號	同上	第六號	同上
第七號	同上	第八號	同上



第九號	同上	第十號	同上
第十一號	同上	第十二號	同上
第十三號	同上	第十四號	同上
第十五號	同上	第十六號	同上
第十七號	同上	第十八號	同上
第三十號	大湊鐵道速成ノ件	第四十七號	軍人恩給法規中改正ノ件
第四十八號	同上	第四十九號	同上
第五十號	同上	第五十一號	同上
第五十二號	同上	第五十三號	同上
第五十四號	同上	第五十五號	同上
第五十六號	同上	第五十七號	同上
第五十八號	同上	第五十九號	同上
第六十號	同上	第六十一號	同上
第六十二號	同上	第六十三號	同上

第六十四號	同上	第六十五號	同上
第六十六號	同上	第六十七號	同上
第六十八號	同上	第六十九號	同上
第七十號	同上	第七十一號	同上
第七十二號	同上	第七十三號	同上
第七十四號	同上	第七十五號	同上
第七十六號	同上	第七十七號	同上
第七十八號	同上	第七十九號	同上
第七十九號	同上	第八十號	同上
第八十一號	同上	第九十二號	同上
第一百五號	山陰鐵道中濱田線並津和野線速成ノ件	第九十九號	軍人恩給法規中改正ノ件
第一百號	同上	第一百十一號	同上
第一百十二號	同上	第一百十三號	同上



第百十四號 同 上

第百十五號 同 上

第百十六號 同 上

第百十七號 同 上

第百十八號 同 上

第百十九號 同 上

第百二十號 同 上

○議院ノ會議ニ付スルヲ要セスト議決シタル請願書左ノ如シ

第三十一號 四國循環鐵道速成ノ件

第三十六號 姫路城西ノ丸保存ノ件

第四十五號 陸軍現役兵家族救済ノ件

第百號 北海道留萌増毛間鐵道速成ノ件

○審査未了ナルヲ以テ議決ヲ後會ニ讓リタル請願書左ノ如シ

第三十四號 兵役税法制定ノ件

第九十九號 上越鐵道速成ノ件

○主査男爵原口兼濟 散會ヲ命ス

散會 午後三時

第三回 大正四年六月七日

出席委員

主査 男爵 原口 兼濟 委員 子爵 櫛 筒 隆 督

同 子爵 立花 種忠 同 男爵 阪井 重季

同 男爵 勝田 四方藏 同 男爵 梨羽 時起

同 橋 清治郎 同 橋本辰二郎

出席政府委員

鐵道院副總裁 古川 阪次郎

陸軍次官 大島 健一

開會 午前十時

○主査男爵原口兼濟 開會ヲ宣告シ請願文書表第百三十五號帝國在郷軍人會國庫補助ノ件、同第百三十六號兵役税法制定ノ件、同第百四十一號中央線電車併用區間延長ノ件、同第百六十六號廣島江津間鐵道速成ノ件及同第百六十七號廢兵及軍人遺族保護ノ件ヲ問題ニ供ス

(參照)

請願文書表 帝國在郷軍人會國庫補助ノ請願書摘要  
第百三十五號

帝國在郷軍人會ハ既ニ一萬有餘ノ分會ト百五十萬餘ノ會員トヲ有スルニ至ルモ同會ノ經費ハ主トシテ會員タル在郷軍人ノ醵金ニ俟タサルヘカラス斯ノ如キハ管ニ事業ノ施行ニ便ナ



ラサルノミナラス動モスレハ其ノ維持困難ナルヲ以テ同會ヲシテ健全ナル發達ヲ遂ケシムル爲國庫ヨリ相當ノ金額ヲ補助セラレタシ

請願文書表  
第三百三十六號

兵役稅法制定ノ請願書摘要

國民ハ齊シク兵役ニ服スルノ義務ヲ負フト雖實際ニ於テハ服役スル者ト然ラサル者トヲ生シ二者ノ間著シク負擔ニ輕重アルカ如キハ國民皆兵ノ本義ニ悖ルモノナルヲ以テ兵役稅法ノ制定シ服役セサル者ニ負ハシムルニ納稅義務ヲ以テシ彼此其ノ權衡ヲ保タシムルト共ニ軍人ノ待遇ヲ厚クシ併セテ歳入ノ増加ニ資セラレタシ

請願文書表  
第四百一號

中央線電車併用區間延長ノ請願書摘要

近年東京市ノ人口甚シク増加シ市民ノ郊外ノ地ニ移住スルモノ自ラ劇増シタルニ拘ラス其ノ移住ニ最適當ナル中野及國分寺方面ハ交通ノ便備ハラサル爲市民ノ不利少カラサルノミナラス地方發展上遺憾ナルヲ以テ中央線電車併用區間ヲ延長シ國分寺驛ニ至ル間ニ實施セラレタシ

請願文書表  
第四百十六號

廣島江津間鐵道速成ノ請願書摘要

廣島江津間ノ鐵道ノ敷設ハ管ニ山陰山陽兩道ヲ連絡シ交通ノ利便ヲ開發スルノミナラス産

業上並軍事上重大ナル關係アルヲ以テ之ヲ第一期線ニ繰上ケ速ニ工事ニ著手セラレタシ

請願文書表  
第四百十七號

廢兵及軍人遺族保護ノ請願書摘要

廢兵ノ治療ヲ容易ナラシメ其ノ死亡ノ後ハ之ヲ靖國神社ニ合祀シ又軍人恩給法ニ依ル増加恩給及遺族扶助料ノ額ヲ増加シ廢兵及軍人遺族ノ生活ヲ容易ナラシムル爲特ニ適當ノ職業ヲ與ヘ其ノ他汽車汽船ノ無賃乗用ヲ許ス等之ニ相當ノ保護ヲ加ヘラルルハ傷痍軍人及軍人遺族ノ保護ヲ完ウセラルル所以ナルヲ以テ適宜之ヲ實施セラレタシ

○委員橋本辰二郎 第三百三十五號帝國在郷軍人會國庫補助ノ件ニ付テハ政府ノ意見如何在郷軍人會ナルモノヲ無用ノ長物ト貶スル者ナキニアラス又軍事上必要ナリト高唱スル者アリ事實果シテ後者ノ如クナリトセハ現在ノ狀態ニテ満足シ得ルヤ又國庫ヨリ之ヲ補助シテ十分ニ之ヲ發達セシムルノ必要ヲ認メサルヤ

○政府委員大島健一 在郷軍人團ヲ組織シタル目的ハ軍人ノ品性ヲ向上セシメ以テ各地方人民ノ模範タル人物タラシメ一朝有事ノ秋ニ際シテハ有用ノ材タラシムル目的ヲ以テ之ヲ組織シタルモノナリ其ノ方法トシテハ新聞ヲ發行セシメ又ハ戰友ト謂フ雜誌ヲ發行シテ軍人ノ品性ヲ陶冶シ技術ヲ練磨セシムルニ努メツツアリ又 陛下ニ置カセラレテモ御手元金ヲ



下賜セラレテ此ノ事業ノ發達ヲ御獎勵アリ洵ニ恐懼シツツアリ

○委員橋本辰二郎 然ラハ政府ハ尙將來ニ於テモ之カ發達向上ニハ努力セラルルナラム果シテ然リトセハ國庫ヨリ其ノ經費ノ一部分ヲ支出セラルルモ亦可ナラスヤ

○政府委員大島健一 國家財政ノ都合ニシテ之ヲ許ストセハ勿論之ヲ補助スヘキ考ナレトモ現今ノ狀態ニ於テハ其ノ要求ニ應ジ難シ

○委員橋本辰二郎 財政之ヲ許スニ於テハ云云此ハ政府ノ常套語トシテ從來使用セラルル所ナリト雖政府ニシテ一片ノ誠意アラハ之ヲ爲ス亦容易ナラムノミ然ルニ辭ヲ財政ノ逼迫ニ籍リテ荏苒時日ヲ消送セムトスルノ意ニ非サルナキカ

○委員男爵梨羽時起 文書表第三百三十六號兵役稅法制定ノ件ニ付テハ政府ハ如何ナル所見ヲ有セラルルヤ

○政府委員大島健一 兵役ニ服セサル者ニ税金ヲ負擔セシメムトスルハ兵役義務ノ神聖ヲ害スルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ兵役ニ服スルハ之ヲ義務ト謂ハムヨリハ寧國民ノ有スル參政權若ハ文武官ニ任セラルルノ權ト同シク一種ノ權利ト見ルヘキモノニ非サルカ即兵役ニ服スルコトハ自己ノ有スル權利ヲ行使シツツアルモノナリ然ルニ其ノ權利ヲ行使

セサル者ヨリ税金ヲ徵收セムトスルハ理論ニ矛盾ヲ來スト共ニ兵役ノ神聖ヲ疑ハシムル基ト謂ハサルヘカス然ルニ又翻テ日本ノ現狀ヲ見ルニ毎年五十七萬人ノ壯丁中徵兵猶豫者ヲ除キテ検査ヲ受クル者四十五萬人其ノ中合格者三十五萬人而シテ徵收セラレテ入營スル者僅僅十萬人ニ過キス一旦兵役ニ服シタル此ノ十萬人ノ壯丁ハ除隊後演習又ハ點呼等ノ爲ニ時時召集セラルルノミナラス一朝有事ノ秋ニ際シテハ最先ニ戰場ニ送ラルルノ重任ヲ思ハハ兵役ニ服スル者ト服セサル者トノ間ノ不公平甚大ナリト謂ハサルヘカラス歐洲列國ノ如ク壯丁ハ皆入營スル國家ニ在リテハ斯カル不公平ナル結果ヲ見スト雖日本ノ現狀ニテハ全ク平均ヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス此ノ點ニ付群馬縣ノ小間物商野中某ナル者數人ノ子息ヲ徵兵検査ニ應セシメタルニ一人モ合格セサルヨリ同シク國民ト生レナカラ數多キ子息中一人モ其ノ義務ヲ盡シ得ル者ナキハ他人ニ對シ不公平ナリトノ考ヨリ一種ノ税金ヲ出シテ之カ調和ヲ計ルヘシトノ提案ヲ爲セシ例モ之アリ然シナカラ今日ノ場合ニ於テ之ヲ實施セムトスルハ前述ノ理由ニ依リテ考慮ヲ要スヘシ

○委員橋本辰二郎 兵役稅ニ對シテハ先年來志賀重昂氏等ニ依リテ唱道セラレタルコトアリ政府ハ之ニ對シ相當ノ所見ヲ定メラレテ然ルヘキニ非サルカ



○委員男爵勝田四方藏 文書表第四百一十一號ハ中央線中野以西ニ電車ヲ運轉セシメラレタシトノ請願ナリ政府ノ所見如何

○政府委員古川阪次郎 政府ニ於テモ中野國分寺間ハ大正六年度ヨリ電車ヲ運轉セシムル考ナリ

○委員子爵立花種忠 文書表第六十六號ハ廣島江津間ノ鐵道敷設ヲ第一期線ニ繰上ケラレタシトノ請願ナリ本線敷設ノ豫定如何

○政府委員古川阪次郎 本線ハ政府ノ豫定線ニシテ第一期線ニ屬ス

○委員子爵立花種忠 文書表第六十七號ノ請願ニ對スル政府ノ所見如何

○政府委員大島健一 單ニ癡兵ノ死亡後之ヲ靖國神社ニ合祀スルコトニ付テノミハ別段經費ヲ要セサルモノナレトモ本請願ノ趣旨ニ付テハ只今俄ニ之ニ同意シ難シ

○主査男爵原口兼濟 前會ニ於テ審査未了ナリシモノ及請願文書表第三回報告ニ載録シタル請願書中本分科委員擔當ノモノヲ逐號問題ト爲シ會議ニ付ス

○議院ノ會議ニ付スヘシト議決シタル請願書左ノ如シ

第三百一十一號 軍人恩給法規中改正ノ件 第三百二十二號 同上

第三百三十三號 同上 第三百三十四號 同上

第三百四十一號 中央線電車併用區間延長ノ件 第三百六十四號 敦鷓鐵道速成ノ件

第三百六十六號 廣島江津間鐵道速成ノ件 第三百六十八號 軍人恩給法規中改正ノ件

第三百六十九號 同上 第三百七十號 同上

第三百七十九號 川之江西條間鐵道速成ノ件 第三百八十二號 軍人恩給法規中改正ノ件

第三百九十號 同上 第三百九十一號 同上

第三百九十二號 同上 第三百九十三號 兵役者優遇方法制定ノ件

○議院ノ會議ニ付スルヲ要セスト議決シタル請願書左ノ如シ

第三百八十一號 中國四國鐵道連絡線直島村寄港ノ件

○審査未了ナル請願書左ノ如シ

第三十四號 兵役稅法制定ノ件 第九十九號 上越鐵道速成ノ件

第三百三十五號 帝國在郷軍人會國庫補助ノ件 第三百三十六號 兵役稅法制定ノ件

第三百四十二號 益田萩及下關間鐵道敷設速成ノ件 第三百四十四號 帝國大學ニ航空學教室設置ノ件

第三百六十五號 山陰線速成ニ關スル件 第三百六十七號 癡兵及軍人遺族保護ノ件







男爵 安藤 直雄  
 木内 重四郎  
 安樂 兼道  
 中村 治兵衛  
 依田 仙右衛門  
 土居 通博  
 堀 正一

關 清英  
 阪本 鈺之助  
 細谷 巖太郎  
 堀内 半三郎  
 森田 庄兵衛  
 木本 源吉  
 鈴木 周三郎

委員長及副委員長選舉

○大正四年五月二十二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 寺島 誠一郎  
 副委員長 男爵 眞 鍋 斌

分科決定及分科擔當委員選定

○大正四年五月二十二日委員會ニ於テ分科ヲ決定シ委員長ハ各委員ノ希望ヲ參酌シ分科擔當委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

第一分科

(大藏省)

男爵 眞田 幸世  
 男爵 岩 倉 道 俱  
 關 清 英  
 阪本 鈺之助  
 細谷 巖太郎  
 中村 治兵衛  
 堀内 半三郎  
 木本 源吉  
 堀 正一

第二分科

(外務省、内務省、司法省)

伯爵 林 博太郎  
 子爵 吉田 清風  
 子爵 豐岡 圭資



第三分科

(陸軍省、海軍省)

兼務委員

男爵	男爵	男爵	男爵	子爵	伯爵	中村治兵衛	土居通博	安藤直雄	千秋季隆	男爵	男爵	男爵	子爵	伊東祐弘
木内重四郎	外松孫太郎	山内長人	村木雅美	丹羽長德	寺島誠一郎	兵衛	博	雄	隆	威	敏	正	田正敏	

第四分科

(文部省、農商務省、逓信省)

男爵	男爵	男爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	子爵	安樂兼道
依田仙右衛門	津田弘道	宮原二郎	眞鍋斌	本多忠鋒	西大路吉光	有馬賴之	松平直德	東坊城德長	鈴木周三郎	森田庄兵衛	鈴木周三郎	鈴木周三郎	鈴木周三郎	

○大正四年五月二十五日第四分科擔當委員子爵東坊城德長、同子爵有馬賴之ヲ第三分科擔當委員ニ



第三分科擔當委員伯爵寺島誠一郎、同安樂兼道ヲ第四分科擔當委員ニ變更ス

主査選舉

○大正四年五月二十二日各分科ニ於テ主査ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

- 第一分科主査 男爵 岩倉道俱
- 第二分科主査 伯爵 林博太郎
- 第三分科主査 男爵 山内長人
- 第四分科主査 男爵 宮原二郎

會議

第一回 大正四年五月二十五日

出席委員

- 委員長 伯爵 寺島誠一郎
- 副委員長 男爵 眞鍋斌
- 委員 子爵 東坊城德長
- 子爵 有馬賴之
- 子爵 吉田清風
- 子爵 伊東祐弘
- 子爵 丹羽長德
- 男爵 內田正敏
- 男爵 宮原二郎
- 男爵 千秋季隆
- 男爵 岩倉道俱
- 男爵 木内重四郎
- 男爵 細谷巖太郎
- 男爵 森田庄兵衛
- 男爵 木本源吉
- 男爵 伊東祐弘
- 男爵 村木雅美
- 男爵 山内長人
- 男爵 外松孫太郎
- 男爵 津田弘道
- 男爵 安藤直雄
- 男爵 安樂兼道
- 男爵 中村治兵衛
- 男爵 土居通博
- 男爵 鈴木周三郎

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

- 子爵 豐岡圭資
- 男爵 丹羽長德
- 男爵 內田正敏
- 男爵 宮原二郎
- 男爵 千秋季隆
- 男爵 岩倉道俱
- 男爵 木内重四郎
- 男爵 細谷巖太郎
- 男爵 森田庄兵衛
- 男爵 木本源吉
- 子爵 伊東祐弘
- 男爵 村木雅美
- 男爵 山内長人
- 男爵 外松孫太郎
- 男爵 津田弘道
- 男爵 安藤直雄
- 男爵 安樂兼道
- 男爵 中村治兵衛
- 男爵 土居通博
- 男爵 鈴木周三郎

開會 午後四時十五分



散會 午後四時二十三分

第二回 大正四年六月五日

出席委員

委員長	伯爵	寺島誠一郎	副委員長	男爵	眞鍋斌
委員	伯爵	林博太郎	同	子爵	松平直德
同	子爵	有馬頼之	同	子爵	西大路吉光
同	子爵	吉田清風	同	子爵	豐岡圭資
同	子爵	丹羽長徳	同	男爵	村木雅美
同	男爵	内田正敏	同	男爵	山内長人
同	男爵	南岩倉具威	同	男爵	宮原二郎
同	男爵	千秋季隆	同	男爵	眞田幸世
同	男爵	岩倉道俱	同	男爵	安藤直雄
同		細谷巖太郎	同		依田仙右衛門
同		土居通博	同		木本源吉

出席政府委員

朝鮮總督府總務局長	伯爵	荒井賢太郎
臺灣總督府財務局長		兒玉秀雄
大藏書記官		中川友次郎
大藏書記官		西野元
陸軍主計總監		小野義一
司法書記官		隈徳三
農商務書記官		平野亮平
逓信書記官		鈴木英雄
		中西四郎

開會 午前九時十四分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

(參照) 委員長ニ提出シタル各分科主査ノ報告左ノ如シ

明治四十五年 大正元 年度歳入歳出總決算並明治四十五年 大正元 年度各特別會計歳入歳出決算及既往年度検査未確定金額



ノ検査確定中歳入及大藏省所管ノ部ヲ審査スルニ

第一

明治四十五年度歳入歳出總決算歳入臨時部第一款官有物拂下代第五項物品拂下代(十一)本項決算額ノ外海軍煉炭製造所ニ於テ收入濟額ニ編入スヘキ件

明治四十五年度各特別會計歳入歳出決算大藏省所管帝國鐵道資本勘定歳出第一款鐵道建設及改良費第一項建設費(一)鐵道院ノ支出ニ係ル件

右ハ政府ノ措置穩當ヲ闕クモノト認ム

第二

明治四十五年度歳入歳出總決算歳入經常部第三款官業及官有財産收入第二項森林收入(十)大阪大林區署ノ徴收ニ係ル件

同上歳入臨時部第一款官有物拂下代第五項物品拂下代(十二)海軍煉炭製造所ノ徴收ニ係ル件  
明治四十三年度及同四十四年度歳入歳出總決算歳入經常部第三款官業及官有財産收入第二項森林收入(一)本項決算額ノ外鹿兒島大林區署ニ於テ收入ニ至ラサル件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スヘキモノト認ム

第三

其ノ他異議ナシ

右及報告候也

大正四年六月一日

決算委員第一分科主査

男爵 岩 倉 道 俱

貴族院決算委員長伯爵寺島誠一郎殿

明治四十五年度歳入歳出總決算並明治四十五年度各特別會計歳入歳出決算及既往年度検査未確定金額ノ検査確定中外務省所管、内務省所管及司法省所管ノ部ヲ審査スルニ

第一

明治四十五年度各特別會計歳入歳出決算内務省所管朝鮮總督府歳入經常部第一款朝鮮歳入第五項雜收入(二)朝鮮總督府ノ徴收ニ係ル件

同上内務省所管臺灣總督府歳入臨時部第一款官有物拂下代第一項官有物拂下代(二)臺灣總督府阿緞廳ノ徴收ニ係ル件



同上內務省所管臺灣總督府歲出經常部第十八款專賣局第七項專賣品補償及購買費(三)臺灣總督府專賣局ノ支出ニ係ル件

右ハ政府ノ措置穩當ヲ闕クモノト認ム

第二

明治四十五年度歲入歲出總決算歲出臨時部內務省所管第二款治水事業費第一項事務費(一)內務省名古屋土木出張所ノ支出ニ係ル件

同上第四款營繕費第三項爆發物倉庫其他新營費(三)兵庫縣ノ支出ニ係ル件

明治四十五年度各特別會計歲入歲出決算內務省所管朝鮮總督府歲出經常部第三款裁判及監獄費

第六項在監人費(四)朝鮮總督府ノ支出ニ係ル件

同上歲出臨時部第六款臨時土地調查費第二項事務費(五)朝鮮總督府ノ支出ニ係ル件

同上第十四款鐵道建設及改良費第一項建設費(七)朝鮮總督府鐵道局ノ支出ニ係ル件及(八)朝鮮總督府鐵道局ノ支出ニ係ル件

同上內務省所管臺灣總督府歲出臨時部第一款特別事業費第一項水利事業費(四)臺灣總督府土木局ノ支出ニ係ル件

同上第八款災害費第一項臺北廳廳舍其他風水害復舊費(五)臺灣總督府宜蘭廳ノ支出ニ係ルモノ二件

同上第九項發電所其他風水害復舊費(六)臺灣總督府土木局ノ支出ニ係ル件

同上內務省所管樺太廳歲出臨時部第一款事業費第三項拓殖費(一)樺太廳ノ支出ニ係ル件

官有物(一)內務省ニ於テ大正元年九月中政府ノ所有ニ係ル廣島市猿樂町所在廣島小林區署敷

地市街宅地ト廣島市所有ニ係ル同市八丁堀市街宅地ト交換ヲ爲シタル件

同上(二)內務省ニ於テ大正元年十二月中政府ノ所有ニ係ル濱松市傳馬濱松郵便局長官舍敷地

ト東京市日英水電株式會社ノ所有ニ係ル濱松市元城宅地ト交換ヲ爲シタル件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スヘキモノト認ム

第三

其ノ他異議ナシ

右及報告候也

大正四年六月一日

決算委員第二分科主査



貴族院決算委員長伯爵寺島誠一郎殿

伯爵 林 博太郎

明治四十五年 年度歳入歳出總決算並明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算陸軍省所管及海軍省所管ノ部ヲ審査スルニ

第一

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳出經常部海軍省所管第二款軍事費第十二項艦營費(一)海軍煉炭製造所ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳出臨時部陸軍省所管第三款整備費第一項整備費(三)第四師團經理部ノ支出ニ係ル件

右ハ政府ノ措置穩當ヲ闕クモノト認ム

第二

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳出經常部陸軍省所管第二款軍事費第九項被服費(二)陸軍被服本廠ノ支出ニ係ル件及第一師團經理部ノ支出ニ係ル件

同上歳出臨時部陸軍省所管第三款整備費第一項整備費(四)臨時陸軍建築部本部ノ支出ニ係ル

件及第十四師團經理部ノ支出ニ係ル件(五)臨時陸軍建築部本部ノ支出ニ係ル件及陸軍兵器本廠ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳出臨時部海軍省所管第六款軍備補充費第一項軍艦製造費(四)海軍省經理局ノ支出ニ係ル件及(五)海軍省經理局ノ支出ニ係ル件

同上第二項水陸設備費(六)吳海軍經理部ノ支出ニ係ル件

同上第三項造船造兵及修理費(七)海軍省經理局ノ支出ニ係ル件及吳海軍經理部ノ支出ニ係ル件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スヘキモノト認ム

第三

其ノ他異議ナシ

右及報告候也

大正四年六月一日

決算委員第三分科主査

男爵 山内 長人



貴族院決算委員長伯爵寺島誠一郎殿

明治四十五年 年度歳入歳出總決算並明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算及既往年度検査未確定金額  
大正元 元 元 元  
ノ検査確定中文部省所管、農商務省所管及遞信省所管ノ部ヲ審査スルニ

第一

- 明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳出經常部遞信省所管第二款遞信費第一項俸給(一)遞信省ノ支出ニ係ル件及同省經理局大阪出張所ノ支出ニ係ル件
- 同上第五項遞信事業費(二)札幌遞信管理局ノ支出ニ係ル件
- 同上第三款航路標識費第四項航路標識事業費(三)航路標識管理所ノ支出ニ係ル件
- 同上歳出臨時部遞信省所管第五款電話交換擴張費第一項電話交換擴張費(四)遞信省經理局ノ支出ニ係ル件
- 明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算文部省所管東京帝國大學歳出臨時部第一款營繕費第十一項會議所修繕及増築費(二)東京帝國大學ノ支出ニ係ル件
- 明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算農商務省所管森林資金歳入第一款林野拂下代第一項林野拂下代(一)青森大林區署ノ徵收ニ係ル件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スヘキモノト認ム

第二

其ノ他異議ナシ

右及報告候也

大正四年六月一日

決算委員第四分科主査

男爵 宮 原 二 郎

貴族院決算委員長伯爵寺島誠一郎殿

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午前十時五十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

明治四十五年 年度歳入歳出總決算並明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算及既往年度検査未確定金額  
大正元 元 元 元  
ノ検査確定シタルモノヲ審査スルニ

第一



明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳入臨時部第一款官有物拂下代第五項物品拂下代決算額ノ外海軍煉炭製造所ニ於テ收入濟額ニ編入スヘキ件

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳出經常部海軍省所管第二款軍事費第十二項艦營費中海軍煉炭製造所ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳出臨時部陸軍省所管第三款整備費第一項整備費中第四師團經理部ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算内務省所管朝鮮總督府歳入經常部第一款朝鮮歳入第五項雜收入中朝鮮總督府ノ徵收ニ係ル件

同上内務省所管臺灣總督府歳入臨時部第一款官有物拂下代第一項官有物拂下代中臺灣總督府阿緞廳ノ徵收ニ係ル件

同上内務省所管臺灣總督府歳出經常部第十八款專賣局第七項專賣品補償及購買費中臺灣總督府專賣局ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算大藏省所管帝國鐵道資本勘定歳出第一款鐵道建設及改良費第一項建設費中鐵道院ノ支出ニ係ル件

右ハ政府ノ措置隱當ヲ闕クモノト認ム

第二

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳入經常部第三款官業及官有財産收入第二項森林收入中大阪大林區署ノ徵收ニ係ル件

同上歳入臨時部第一款官有物拂下代第五項物品拂下代中海軍煉炭製造所ノ徵收ニ係ル件

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳出經常部陸軍省所管第二款軍事費第九項被服費中陸軍被服本廠ノ支出ニ係ル件及第一師團經理部ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳出經常部遞信省所管第二款遞信費第一項俸給中遞信省ノ支出ニ係ル件及同省經理局大阪出張所ノ支出ニ係ル件

同上第五項遞信事業費中札幌遞信管理局ノ支出ニ係ル件

同上第三款航路標識費第四項航路標識事業費中航路標識管理所ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳出臨時部内務省所管第二款治水事業費第一項事務費中内務省名古屋土木出張所ノ支出ニ係ル件

同上第四款營繕費第三項爆發物倉庫其他新營費中兵庫縣ノ支出ニ係ル件



明治四十五年 年度歲入歲出總決算歲出臨時部陸軍省所管第三款整備費第一項整備費中臨時陸軍建築部本部ノ支出ニ係ルモノ二件、第十四師團經理部ノ支出ニ係ル件及陸軍兵器本廠ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度歲入歲出總決算歲出臨時部海軍省所管第六款軍備補充費第一項軍艦製造費中海軍省經理局ノ支出ニ係ルモノ二件

同上第二項水陸設備費中吳海軍經理部ノ支出ニ係ル件

同上第三項造船造兵及修理費中海軍省經理局ノ支出ニ係ル件及吳海軍經理部ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度歲入歲出總決算歲出臨時部遞信省所管第五款電話交換擴張費第一項電話交換擴張費中遞信省經理局ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度各特別會計歲入歲出決算內務省所管朝鮮總督府歲出經常部第三款裁判及監獄費第六項在監人費中朝鮮總督府ノ支出ニ係ル件

同上歲出臨時部第六款臨時土地調查費第二項事務費中朝鮮總督府ノ支出ニ係ル件

同上第十四款鐵道建設及改良費第一項建設費中朝鮮總督府鐵道局ノ支出ニ係ルモノ二件

同上內務省所管臺灣總督府歲出臨時部第一款特別事業費第一項水利事業費中臺灣總督府土木

局ノ支出ニ係ル件

同上第八款災害費第一項臺北廳廳舍其他風水害復舊費中臺灣總督府宜蘭廳ノ支出ニ係ルモノ二件

同上第九項發電所其他風水害復舊費中臺灣總督府土木局ノ支出ニ係ル件

同上內務省所管樺太廳歲出臨時部第一款事業費第三項拓殖費中樺太廳ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度各特別會計歲入歲出決算文部省所管東京帝國大學歲出臨時部第一款營繕費第十一項會議所修繕及增築費中東京帝國大學ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度各特別會計歲入歲出決算農商務省所管森林資金歲入第一款林野拂下代第一項林野拂下代中青森大林區署ノ徵收ニ係ル件

內務省ニ於テ大正元年九月中政府ノ所有ニ係ル廣島市猿樂町所在廣島小林區署敷地市街宅地ト廣島市所有ニ係ル同市八丁堀市街宅地ト交換ヲ爲シタル件

內務省ニ於テ大正元年十二月中政府ノ所有ニ係ル濱松市傳馬濱松郵便局長官舎敷地ト東京市日英水電株式會社ノ所有ニ係ル濱松市元城宅地ト交換ヲ爲シタル件

明治四十三年度及同四十四年度歲入歲出總決算歲入經常部第三款官業及官有財產收入第二項



森林收入決算額ノ外鹿兒島大林區署ニ於テ收入ニ至ラサル件  
右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スヘキモノト認ム

第三

其ノ他異議ナシ

右及報告候也

大正四年六月五日

決算委員長 伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 寺島誠一郎印

副委員長 男爵 眞鍋 斌印

(附記) 各分科ニ於ケル審査ノ概況左ノ如シ

決算委員第一分科會

擔當委員選定

○大正四年五月二十二日決算委員第一分科擔當委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

男爵 眞田 幸世

男爵 岩倉 道俱

關 清 英

阪本 鈺之助

細谷 巖太郎

中村 治兵衛

堀内 半三郎

木本 源吉

堀 正一

主査選舉

○大正四年五月二十二日主査ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

主査 男爵 岩倉 道俱

會議

第一回 大正四年五月二十七日



出席委員

主查	男爵	岩倉道俱	委員	男爵	真田幸世
同		中村治兵衛	同		堀内半三郎
同		木本源吉	同		堀正一

出席政府委員

鐵道院理事	森本邦治郎
大藏省主稅局長	菅原通敬
大藏書記官	小野義一

開會 午前十時三十五分

○主查男爵岩倉道俱 開會ヲ宣告ス

(附記) 本分科會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○主查男爵岩倉道俱 休憩ヲ命ス

休憩 午前十一時三十五分

開會 午前十一時三十八分

○主查男爵岩倉道俱 開會ヲ宣告ス

○主查男爵岩倉道俱 散會ヲ命ス

散會 午後零時四分

第二回 大正四年五月三十一日

出席委員

主查	男爵	岩倉道俱	委員	男爵	真田幸世
同		中村治兵衛	同		堀内半三郎
同		木本源吉	同		堀正一

出席政府委員

鐵道院理事	森本邦治郎
大藏書記官	小野義一
海軍主計總監	志佐勝
農商務省山林局長	岡本英太郎

開會 午前十時十九分



○主查男爵岩倉道俱 開會ヲ宣告ス

○主查男爵岩倉道俱 散會ヲ命ス

散會 午前十一時五十九分

第三回 大正四年六月一日

出席委員

主查 男爵 岩倉道俱

委員 男爵

真田幸世

同 阪本鈺之助

同

中村治兵衛

同 堀内半三郎

同

木本源吉

同 堀正一

同

同

出席政府委員

鐵道院理事

森本邦治郎

大藏書記官

小野義一

海軍主計總監

志佐勝

農商務省山林局長

岡本英太郎

開會 午後三時三分

○主查男爵岩倉道俱 開會ヲ宣告ス

○主查男爵岩倉道俱 散會ヲ命ス

散會 午後三時四十三分

(附記) 同日委員長ニ提出シタル主查ノ報告左ノ如シ

明治四十五年 年度歳入歳出總決算並明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算及既往年度検査未確定金額

ノ検査確定中歳入及大藏省所管ノ部ヲ審査スルニ

第一

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳入臨時部第一款官有物拂下代第五項物品拂下代(十一)本項決

算額ノ外海軍煉炭製造所ニ於テ收入濟額ニ編入スヘキ件

明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算大藏省所管帝國鐵道資本勘定歳出第一款鐵道建設及改

良費第一項建設費(一)鐵道院ノ支出ニ係ル件

右ハ政府ノ措置穩當ヲ闕クモノト認ム

第二



明治四十五年度歳入歳出總決算歳入經常部第三款官業及官有財産收入第二項森林收入(十)大阪  
大林区署ノ徴收ニ係ル件

同上歳入臨時部第一款官有物拂下代第五項物品拂下代(十二)海軍煉炭製造所ノ徴收ニ係ル件

明治四十三年度及同四十四年度歳入歳出總決算歳入經常部第三款官業及官有財産收入第二項

森林收入(一)本項決算額ノ外鹿兒島大林区署ニ於テ收入ニ至ラサル件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スヘキモノト認ム

第三

其ノ他異議ナシ

右及報告候也

大正四年六月一日

決算委員第一分科主査

男爵 岩 倉 道 俱

○主査 貴族院決算委員長伯爵寺島誠一郎殿

主査 男爵 岩 倉 道 俱印

決算委員第二分科會

擔當委員選定

○大正四年五月二十二日決算委員第二分科擔當委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵	林	博	太郎
子爵	吉	田	清
子爵	豐	岡	圭
子爵	伊	東	祐
男爵	內	田	正
男爵	南	岩	倉
男爵	千	秋	季
男爵	安	藤	直
兼務委員	土	居	通
	中	村	治
		兵	衛

主査選舉



○大正四年五月二十二日主查ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

主查 伯爵 林 博太郎

會議

第一回 大正四年五月二十七日

出席委員

主查 伯爵 林 博太郎 委員 子爵 吉田 清風

同 子爵 豐岡 圭資 同 子爵 伊東 祐弘

同 男爵 內田 正敏 同 男爵 南岩 倉具威

同 男爵 千秋 季隆 同 男爵 安藤 直雄

同 土居 通博 兼務委員 中村 治兵衛

出席政府委員

內務書記官 堀 田 貢

朝鮮總督府 荒井 賢太郎

度支部長官 中川 友次郎

臺灣總督府 財務局長

○主查 伯爵 林 博太郎 開會 午前十時二十七分

○主查 伯爵 林 博太郎 開會 ヲ宣告ス

(附記) 本分科會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○主查 伯爵 林 博太郎 休憩 ヲ命ス

○主查 伯爵 林 博太郎 休憩 午前十一時五十一分

○主查 伯爵 林 博太郎 開會 午後一時十七分

○主查 伯爵 林 博太郎 開會 ヲ宣告ス

○主查 伯爵 林 博太郎 散會 ヲ命ス

○主查 伯爵 林 博太郎 散會 午後二時二十五分

第二回 大正四年五月二十九日

出席委員

主查 伯爵 林 博太郎 委員 子爵 吉田 清風

同 子爵 豐岡 圭資 同 子爵 伊東 祐弘

同 男爵 內田 正敏 同 男爵 南岩 倉具威



同 男爵 千 秋 季 隆 同 男爵 安 藤 直 雄

出席政府委員

內務書記官 堀 田 貢  
朝鮮總督府總務局長 伯爵 荒 井 賢 太 郎  
度支總督府總務局長 官 兒 玉 秀 雄  
臺灣總督府財務局長 中 川 友 次 郎

開會 午前十時四十一分

○主查伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○主查伯爵林博太郎 休憩ヲ命ス

休憩 午前十一時三十七分

開會 午後一時十一分

○主查伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

○主查伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後二時三分

第三回 大正四年六月一日

出席委員

主查 伯爵 林 博 太 郎 委員 子爵 吉 田 清 風  
同 子爵 豐 岡 圭 資 同 子爵 伊 東 祐 弘  
同 男爵 內 田 正 敏 同 男爵 南 岩 倉 具 威  
同 男爵 千 秋 季 隆 同 男爵 安 藤 直 雄  
同 土 居 通 博

出席政府委員

內務書記官 堀 田 貢  
朝鮮總督府總務局長 伯爵 荒 井 賢 太 郎  
度支總督府總務局長 官 兒 玉 秀 雄  
臺灣總督府財務局長 中 川 友 次 郎

開會 午後三時五十七分



○主查伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス  
○主查伯爵林博太郎 散會ヲ命ス

散會 午後五時二十五分

(附記) 同日委員長ニ提出シタル主查ノ報告左ノ如シ

明治四十五年度歳入歳出總決算並明治四十五年度各特別會計歳入歳出決算及既往年度検査未確定金額  
大正元 元 検査確定中外務省所管、内務省所管及司法省所管ノ部ヲ審査スルニ

第一

明治四十五年度各特別會計歳入歳出決算内務省所管朝鮮總督府歳入經常部第一款朝鮮歳入第五  
大正元 元 項雜收入(二)朝鮮總督府ノ徵收ニ係ル件

同上内務省所管臺灣總督府歳入臨時部第一款官有物拂下代第一項官有物拂下代(二)臺灣總督  
府阿緞廳ノ徵收ニ係ル件

同上内務省所管臺灣總督府歳出經常部第十八款專賣局第七項專賣品補償及購買費(三)臺灣總  
督府專賣局ノ支出ニ係ル件

右ハ政府ノ措置穩當ヲ闕クモノト認ム

第二

明治四十五年度歳入歳出總決算歳出臨時部内務省所管第二款治水事業費第一項事務費(一)内務  
大正元 元 省名古屋土木出張所ノ支出ニ係ル件

同上第四款營繕費第三項爆發物倉庫其他新營費(三)兵庫縣ノ支出ニ係ル件  
明治四十五年度各特別會計歳入歳出決算内務省所管朝鮮總督府歳出經常部第三款裁判及監獄費  
大正元 元 第六項在監人費(四)朝鮮總督府ノ支出ニ係ル件

同上歳出臨時部第六款臨時土地調査費第二項事務費(五)朝鮮總督府ノ支出ニ係ル件

同上第十四款鐵道建設及改良費第一項建設費(七)朝鮮總督府鐵道局ノ支出ニ係ル件及(八)朝  
鮮總督府鐵道局ノ支出ニ係ル件

同上内務省所管臺灣總督府歳出臨時部第一款特別事業費第一項水利事業費(四)臺灣總督府土  
木局ノ支出ニ係ル件

同上第八款災害費第一項臺北廳廳舍其他風水害復舊費(五)臺灣總督府宜蘭廳ノ支出ニ係ルモ  
ノ二件

同上第九項發電所其他風水害復舊費(六)臺灣總督府土木局ノ支出ニ係ル件



同上内務省所管樺太廳歲出臨時部第一款事業費第三項拓殖費(一)樺太廳ノ支出ニ係ル件  
官有物(一)内務省ニ於テ大正元年九月中政府ノ所有ニ係ル廣島市猿樂町所在廣島小林區署敷  
地市街宅地ト廣島市所有ニ係ル同市八丁堀市街宅地ト交換ヲ爲シタル件

同上(二)内務省ニ於テ大正元年十二月中政府ノ所有ニ係ル濱松市傳馬濱松郵便局長官舎敷地  
ト東京市日英水電株式會社ノ所有ニ係ル濱松市元城宅地ト交換ヲ爲シタル件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スヘキモノト認ム

第三

其ノ他異議ナシ

右及報告候也

大正四年六月一日

決算委員會第二分科主査

伯爵 林 博太郎

貴族院決算委員長伯爵寺島誠一郎殿

主査 伯爵 林 博太郎印

決算委員會第三分科會

擔當委員選定

○大正四年五月二十二日決算委員會第三分科擔當委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵	寺島誠一郎
子爵	丹羽長徳
男爵	村木雅美
男爵	山内長人
男爵	外松孫太郎
	木内重四郎
	安樂兼道
	森田庄兵衛
	鈴木周三郎

○大正四年五月二十五日第三分科擔當委員伯爵寺島誠一郎、同安樂兼道ヲ第四分科擔當委員ニ  
第四分科擔當委員子爵東坊城徳長、同子爵有馬頼之ヲ第三分科擔當委員ニ各變更ス



主查選舉

○大正四年五月二十二日主查ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

主查 男爵 山内 長人

會議

第一回 大正四年五月二十七日

出席委員

主查	男爵	山内	長人	委員	子爵	東坊城	德長
同	子爵	有馬	賴之	同	子爵	丹羽	長德
同	男爵	村木	雅美	同	男爵	外松	孫太郎
同		木内	重四郎	同		森田	庄兵衛
同		鈴木	周三郎				

出席政府委員

陸軍主計總監	隈 德 三
海軍主計總監	志 佐 勝

開會 午前十時二十六分

海軍主計大監 佐野 雄治

○主查男爵山内長人 開會ヲ宣告ス

(附記) 本分科會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○主查男爵山内長人 散會ヲ命ス

散會 午前十時四十一分

第二回 大正四年五月三十一日

出席委員

主查	男爵	山内	長人	委員	子爵	東坊城	德長
同	子爵	有馬	賴之	同	子爵	丹羽	長德
同	男爵	村木	雅美	同	男爵	外松	孫太郎
同		木内	重四郎	同		鈴木	周三郎

出席政府委員

陸軍主計總監	隈 德 三
--------	-------



開會 午前十時四分

○主查男爵山内長人 開會ヲ宣告ス

○主查男爵山内長人 散會ヲ命ス

散會 午前十一時十九分

第三回 大正四年六月一日

出席委員

主查 男爵 山内 長人	委員 子爵 東坊城 德長
同 子爵 有馬 賴之	同 子爵 丹羽 長德
同 男爵 村木 雅美	同 木内 重四郎
出席政府委員	陸軍一等主計正 廣瀨 正德

陸軍一等主計正 廣瀨 正德
海軍主計總監 志 佐 勝
海軍主計大監 佐野 雄治

海軍主計總監 志 佐 勝

開會 午後二時四十四分

○主查男爵山内長人 開會ヲ宣告ス

○主查男爵山内長人 散會ヲ命ス

散會 午後三時七分

(附記) 同日委員長ニ提出シタル主查ノ報告左ノ如シ

明治四十五年度歳入歳出總決算並明治四十五年度各特別會計歳入歳出決算陸軍省所管及海軍省所管ノ部ヲ審査スルニ

第一

明治四十五年度歳入歳出總決算歳出經常部海軍省所管第二款軍事費第十二項艦營費(一)海軍煉

炭製造所ノ支出ニ係ル件

明治四十五年度歳入歳出總決算歳出臨時部陸軍省所管第三款整備費第一項整備費(三)第四師團

經理部ノ支出ニ係ル件

右ハ政府ノ措置穩當ヲ闕クモノト認ム



第二

明治四十五年度歳入歳出總決算歳出經常部陸軍省所管第二款軍事費第九項被服費(一)陸軍被服  
 本廠ノ支出ニ係ル件及第一師團經理部ノ支出ニ係ル件  
 同上歳出臨時部陸軍省所管第三款整備費第一項整備費(四)臨時陸軍建築部本部ノ支出ニ係ル  
 件及第十四師團經理部ノ支出ニ係ル件(五)臨時陸軍建築部本部ノ支出ニ係ル件及陸軍兵器本  
 廠ノ支出ニ係ル件  
 明治四十五年度歳入歳出總決算歳出臨時部海軍省所管第六款軍備補充費第一項軍艦製造費(四)  
 海軍省經理局ノ支出ニ係ル件及(五)海軍省經理局ノ支出ニ係ル件  
 同上第二項水陸設備費(六)吳海軍經理部ノ支出ニ係ル件  
 同上第三項造船造兵及修理費(七)海軍省經理局ノ支出ニ係ル件及吳海軍經理部ノ支出ニ係ル  
 件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スヘキモノト認ム

第三

其ノ他異議ナシ

右及報告候也

大正四年六月一日

決算委員第三分科主査

男爵 山内 長 人

貴族院決算委員長伯爵寺島誠一郎殿

主査 男爵 山内 長 人印

決算委員第四分科會

擔當委員選定

○大正四年五月二十二日決算委員第四分科擔當委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

子爵	東坊城	徳長
子爵	松平	直徳
子爵	有馬	賴之
子爵	西大路	吉光
子爵	本多	忠鋒



男爵 眞 鍋 斌  
 男爵 宮 原 二 郎  
 男爵 津 田 弘 道  
 依田 仙右衛門

○大正四年五月二十五日第四分科擔當委員子爵東坊城德長、同子爵有馬賴之ヲ第三分科擔當委員ニ第三分科擔當委員伯爵寺島誠一郎、同安樂兼道ヲ第四分科擔當委員ニ各變更ス

主查選舉

○大正四年五月二十二日主查ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

主 查 男爵 宮 原 二 郎

會議

第一回 大正四年五月二十七日

出席委員

主查 男爵 宮 原 二 郎 委員 伯爵 寺 島 誠 一 郎  
 同 子爵 松 平 直 德 同 子爵 西 大 路 吉 光

同 子爵 本 多 忠 鋒 同 男爵 眞 鍋 斌  
 同 男爵 津 田 弘 道 同 安 樂 兼 道  
 同 依田 仙右衛門

出席政府委員

文部書記官 山崎達之輔  
 農商務書記官 鈴木英雄  
 遞信書記官 中西四郎

開會 午前十時二十五分

○主查男爵宮原二郎 開會ヲ宣告ス

(附記) 本分科會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○主查男爵宮原二郎 休憩ヲ命ス

休憩 午前十一時十二分

開會 午後零時三分

○主查男爵宮原二郎 開會ヲ宣告ス



○主查男爵宮原二郎 散會ヲ命ス

散會 午後零時三十分

第二回 大正四年五月三十一日

出席委員

主查	男爵	宮原	二郎	委員	子爵	松平	直德
同	子爵	西大路	吉光	同	子爵	本多	忠鋒
同	男爵	眞鍋	斌	同	男爵	津田	弘道
同		依田	仙右衛門				

出席政府委員

文部書記官	山崎達之輔
農商務省山林局長	岡本英太郎
遞信書記官	中西四郎

開會 午前十時五分

○主查男爵宮原二郎 開會ヲ宣告ス

○主查男爵宮原二郎 散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十一分

第三回 大正四年六月一日

出席委員

主查	男爵	宮原	二郎	委員	伯爵	寺島	誠一郎
同	子爵	松平	直德	同	子爵	西大路	吉光
同	子爵	本多	忠鋒	同	男爵	眞鍋	斌
同	男爵	津田	弘道	同		安樂	兼道
同		依田	仙右衛門				

出席政府委員

文部書記官	山崎達之輔
農商務書記官	鈴木英雄
遞信書記官	中西四郎

開會 午後二時二十九分



○主査男爵宮原二郎 開會ヲ宣告ス

○主査男爵宮原二郎 休憩ヲ命ス

休憩 午後三時三十七分

開會 午後三時四十三分

○主査男爵宮原二郎 開會ヲ宣告ス

○主査男爵宮原二郎 散會ヲ命ス

散會 午後三時五十六分

(附記) 同日委員長ニ提出シタル主査ノ報告左ノ如シ

明治四十五年 年度歳入歳出總決算並明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算及既往年度検査未確定金額

大正 元 年度歳入歳出總決算並大正 元 年度各特別會計歳入歳出決算及既往年度検査未確定金額

第一

明治四十五年 年度歳入歳出總決算歳出經常部遞信省所管第二款遞信費第一項俸給(一)遞信省ノ支

出ニ係ル件及同省經理局大阪出張所ノ支出ニ係ル件

同上第五項遞信事業費(一)札幌遞信管理局ノ支出ニ係ル件

同上第三款航路標識費第四項航路標識事業費(三)航路標識管理所ノ支出ニ係ル件

同上歳出臨時部遞信省所管第五款電話交換擴張費第一項電話交換擴張費(四)遞信省經理局ノ

支出ニ係ル件

明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算文部省所管東京帝國大學歳出臨時部第一款營繕費第十

一項會議所修繕及増築費(二)東京帝國大學ノ支出ニ係ル件

明治四十五年 年度各特別會計歳入歳出決算農商務省所管森林資金歳入第一款林野拂下代第一項林

野拂下代(一)青森大林區署ノ徴收ニ係ル件

右ハ政府ニ對シ將來ノ注意ヲ促スヘキモノト認ム

第二

其ノ他異議ナシ

右及報告候也

大正四年六月一日

決算委員第四分科主査

男爵 宮 原 二 郎



貴族院決算委員長伯爵寺島誠一郎殿

主查男爵宮原二郎印

○特別委員會

要塞地帶法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正四年五月二十五日議長ノ指名ヲ以テ要塞地帶法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵	松浦厚
子爵	樋口誠康
子爵	水野直
男爵	山内長人
男爵	宮原二郎
石	黒五十二
杉	田定一
廣	瀬滿正
鎌	田勝太郎



委員長及副委員長選舉

○大正四年五月二十八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	松浦厚
副委員長	子爵	樋口誠康

會議

第一回 大正四年五月二十八日

出席委員

委員長	伯爵	松浦厚	副委員長	子爵	樋口誠康
委員	子爵	水野直	同	男爵	山內長人
同	男爵	宮原二郎	同		石黒五十二
同		杉田定一	同		廣瀨滿正
同		鎌田勝太郎			

出席國務大臣

陸軍大臣

岡市之助

出席政府委員

陸軍次官

大島健一

開會 午前十時十四分

○委員長伯爵松浦厚 開會ヲ宣告ス

(參照)

要塞地帯法中改正法律案

要塞地帯法中左ノ通改正ス

第七條 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帯内水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、模寫、

錄取シ又ハ要塞地帯内ヲ航空スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ要塞地帯外ト雖第三區ノ境界線ヨリ外方三千五百間以内ノ區域ニ於テ之ヲ適用

ス

航空ノ許否ニ關シテハ要塞司令官ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條中「十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金」ヲ「一年以下ノ懲役若ハ十一日以上ノ拘留又ハ五十圓以下ノ罰金若ハ二圓以上ノ科料」ニ改ム



第二十三條中「未遂犯罪」ヲ「未遂罪」ニ改ム

第二十四條中「二圓以上四十圓以下ノ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ二圓以上ノ科料」ニ改ム

第二十五條中「五錢以上一圓九十五錢以下」ヲ「二圓以下」ニ改ム

第二十六條中「十一日以上二月以下ノ重禁錮」ヲ「二月以下ノ懲役若ハ十一日以上ノ拘留」ニ改ム

圓以上五十圓以下ノ罰金」ヲ「五十圓以下ノ罰金若ハ五圓以上ノ科料」ニ改ム

五錢以上一圓九十五錢以下」ヲ「二圓以下」ニ改ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵松浦厚 散會ヲ命ス

散會 午前十一時四十六分

第二回 大正四年六月一日

出席委員

委員長	伯爵	松浦厚	副委員長	子爵	樋口誠康
委員	子爵	水野直	同	同	石黒五十二
同	同	杉田定一	同	同	廣瀬滿正

同 鎌田勝太郎

出席政府委員

陸軍次官	大島健一
海軍次官	鈴木貫太郎

開會 午後二時十五分

○委員長伯爵松浦厚 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵松浦厚 散會ヲ命ス

散會 午後二時三十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

要塞地帯法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月一日

右特別委員長

伯爵 松浦厚



貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長	伯爵	松浦	厚印
副委員長	子爵	樋口	誠康

日本勸業銀行法中改正法律案特別委員會

農工銀行法中改正法律案特別委員會

北海道拓殖銀行法中改正法律案特別委員會

(附記) 右特別委員會會議録ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正四年五月二十五日議長ノ指名ヲ以テ日本勸業銀行法中改正法律案、農工銀行法中改正法律案、北海道拓殖銀行法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵	松平	直之
子爵	永井	尙敏
子爵	前田	利定
男爵	和田	彦次郎
	尾崎	麟太郎
	木内	重四郎
	橋本	圭三郎



委員長及副委員長選舉

○大正四年五月二十七日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

安田善三郎  
鈴木周三郎

委員長 伯爵 松平直之

副委員長 子爵 橋本圭三郎

會議

第一回 大正四年五月二十七日

出席委員

委員長 伯爵 松平直之 副委員長 橋本圭三郎

委員 子爵 永井尚敏 同 子爵 前田利定

同 木内重四郎 同 安田善三郎

同 鈴木周三郎

出席政府委員

大藏次官 濱口雄幸

大藏書記官 森俊六郎

開會 午前十時二十分

○委員長伯爵松平直之 開會ヲ宣告ス

(參照)

日本勸業銀行法中改正法律案

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第十五條中「森林組合」ノ下ニ「畜産組合」ヲ加フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

農工銀行法中改正法律案

農工銀行法中左ノ通改正ス

第七條ノ三中「森林組合」ノ下ニ「畜産組合」ヲ加フ

附則



本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

北海道拓殖銀行法中改正法律案

北海道拓殖銀行法中左ノ通改正ス

第八條中「森林組合」ノ下ニ「畜産組合」ヲ加フ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○委員長伯爵松平直之 日本勸業銀行法中改正法律案、農工銀行法中改正法律案及北海道拓殖銀行法中改正法律案ヲ一括問題ニ供ス

○政府委員森俊六郎 明治三十三年法律第二十號ヲ以テ産牛馬組合法ヲ制定セラレタルモ同法ノ規定不備ナリシ爲之ニ依リテ設置セラレタル産牛馬組合ノ信用程度ハ未是等ノ三銀行ヨリ無擔保貸付ヲ爲サシムル迄ニ達セザリキ然ルニ昨年畜産組合法案議會ヲ通過シ本年法律第一號ヲ以テ公布セラレ將ニ七月一日ヨリ施行セラレムトス而シテ同法ニ依レハ畜産組合ハ産業組合、漁業組合及森林組合ト齊シク信用ヲ與ヘ得ルニ至リタルヲ以テ之ニ對シ日本勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ヨリ無擔保貸付ヲ爲スノ道ヲ開カムト欲ス是レ前述三銀行法中一部ノ改正ヲ

欲スル所以ナリ

○委員長伯爵松平直之 三案ニ付質問ナキヤヲ諮フ

○委員橋本圭三郎 本員ノ問ハムト欲スル所ハ直接本案トハ關係ナキモ此ノ機會ヲ利用シテ日本勸業銀行等ニ於ケル資金貸付ニ關シ説明ヲ求メムトス日獨開戦後ノ財政處分ノ一トシテ政府ハ預金部ヨリ八百萬圓ヲ五百萬圓ト三百萬圓トニ分チ日本勸業銀行及日本興業銀行ヲ經テ貸付ヲ爲セリトノコトナルカ其ノ資金ノ性質及貸付ノ利率如何又之カ融通ノ方法條件等ヲ示サレタシ尙本員ノ聞ク所ニ依レハ右貸付ノ效果等ニ付往往世評ヲ招ケルカ如シ果シテ如何

○政府委員森俊六郎 日本勸業銀行及日本興業銀行ニ對シ預金部ヨリ融通シタル金額ハ前者ニ對シテハ五百萬圓後者ニ對シテハ三百萬圓ナリ其ノ貸付ノ條件ハ利子七分、据置年限二箇年、償還年限ハ八箇年ナリ而シテ既ニ貸付済トナリタル額ハ日本勸業銀行ニ於テ直接貸付ヲ爲シタルモノ即産業組合ヘ貸付ケタルモノ百一萬九千餘圓代理貸付ヲ爲シタルモノ即農工銀行ヲシテ貸付ケシメシモノ三百七十六萬餘圓合計四百七十八萬八千三百六十圓ナリ又日本興業銀行ニ於テハ二百六十萬餘圓ナリ日本興業銀行ノ貸付ヲ受ケタルハ主トシテ工業者ニシテ詳言スレハ重要輸出品三十二種ノ生産者ナリ而シテ之カ貸付ハ輸出額ヲ標準トシテ決定シ就中最多額ノ貸付ヲ



受ケタルハ長野縣ニ於ケル蠶絲業者ニシテ其ノ額三十萬圓ナリ最後ニ該貸付ノ效果如何ニ付テハ未具體的ニ之ヲ知ル能ハサルナリ

○委員橋本圭三郎 右ハ貸付條件困難ナリシ爲政府ノ厚意モ遍ク及ハス之カ利用ヲ爲シ得タル者ハ極メテ少數ナリシトノ世評アルモ果シテ如何

○政府委員森俊六郎 政府トシテハ兩銀行ヲシテ出來得ル限り十分ニ貸付ヲ行ハシムルノ方針ヲ採リタルモ銀行ニ於テハ債權ノ安全ヲ計ル上ニ於テ細心ノ注意ヲ施シタル結果借入ノ申込中不備ノ點存スルヲ見タルヲ以テ遍ク所要者ノ希望ヲ満足セシメ能ハサリシナリ尙申込ヲ爲シタル産業組合等ニ關シテモ其ノ内容基礎未十分ニ充實セサルモノアリ爲ニ銀行ニ於テハ安シテ貸付ヲ爲シ得サルモノアリキ

○委員橋本圭三郎 畜産組合法ノ制定ニ先チ即産牛馬組合法ノ行ハルルニ當リ既ニ産牛馬組合ニ於テ低利資金ノ融通ヲ希望シタルモノアリシモ從來之ニ對シテ貸付ヲ許サス然ルニ畜産組合法發布後特ニ斯ノ如キ厚意的貸付ヲ爲スコトヲ許容セムトスルハ如何ナル趣旨ニ出ツルヤ

○政府委員森俊六郎 舊法ハ組合經費ノ徵收ニ關スル規定不備ナリキ之ニ反シテ新法ニ依レハ組合ノ經費滯納ノ場合ハ市町村稅ノ例ニ準據シテ之ヲ徵收スルモノトシ又新ニ組合員ノ強制加入

ノ規定ヲ設ケ及事業ノ範圍モ擴張セラレタル等組合ノ組織鞏固トナリタルヲ以テ此ノ特典ヲ賦與セムトスルモノナリ然ルニ舊法ニ依レハ産牛馬組合ト雖借入金ヲ爲シ得サリシニハ非サルモ之カ償還ノ方法ニ關シテハ十分ノ保障ヲ闕キタルヲ以テ斯ノ如キ資金融通ノ道ヲ開カサリシナリ

○委員長伯爵松平直之 質問盡キタルヲ以テ三案ハ可決セラレタルモノト認メ異議ナキヤヲ諮フ  
異議ナシ

○委員長伯爵松平直之 三案可決ノ旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス  
散會 午前十時三十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

日本勸業銀行法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年五月二十七日

右特別委員長

伯爵 松 平 直 之



貴族院議長公爵徳川家達殿

農工銀行法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年五月二十七日

右特別委員長

伯爵 松平直之

貴族院議長公爵徳川家達殿

北海道拓殖銀行法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年五月二十七日

右特別委員長

伯爵 松平直之

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 松平直之印

副委員長

橋本圭三郎印



無線電信法案特別委員會

委員選舉

○大正四年五月二十九日議長ノ指名ヲ以テ無線電信法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- |    |       |
|----|-------|
| 侯爵 | 中御門經恭 |
| 伯爵 | 奧平昌恭  |
| 子爵 | 井上匡四郎 |
| 男爵 | 有地品之允 |
|    | 小松謙次郎 |
| 男爵 | 肝付兼行  |
|    | 藤田四郎  |
|    | 磯部四郎  |
|    | 尼崎伊三郎 |

委員長及副委員長選舉

○大正四年五月三十一日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ



會議

第一回 大正四年五月三十一日

出席委員

委員長 伯爵 奧平昌恭

副委員長男爵

有地品之允

委員 侯爵 中御門經恭

同 男爵

肝付兼行

同 藤田四郎

同

磯部四郎

出席國務大臣

遞信大臣

武富時敏

出席政府委員

遞信次官

湯河元臣

遞信省通信局長

田中次郎

遞信省電氣局長

棟居喜九馬

遞信書記官

田邊治通

出席主務官

遞信技師

佐伯美津留

開會 午前十時十七分

○委員長伯爵奧平昌恭 開會ヲ宣告ス

(參照)

無線電信法案

第一條 無線電信及無線電話ハ政府之ヲ管掌ス

第二條 左ニ掲クル無線電信又ハ無線電話ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ

私設スルコトヲ得

一 航行ノ安全ニ備フル目的ヲ以テ船舶ニ施設スルモノ

二 同一人ノ特定事業ニ用ウル船舶相互間ニ於テ其ノ事業ノ用ニ供スル目的ヲ以テ船舶ニ施

設スルモノ

三 電報送受ノ爲電信官署トノ間ニ施設者ノ專用ニ供スル目的ヲ以テ電信、電話、無線電信



又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナキ陸地又ハ船舶ニ施設スルモノ

四 電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル公衆通信ノ連絡ナク前號ノ規定ニ依ルヲ不適

當トスル陸地相互間又ハ陸地船舶間ニ於テ同一人ノ特定事業ニ用ウル目的ヲ以テ陸地又

ハ船舶ニ施設スルモノ

五 無線電信又ハ無線電話ニ關スル實驗ニ專用スル目的ヲ以テ施設スルモノ

六 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ施設ノ必要アリト認メタルモノ

第三條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ機器、其ノ裝置及運用ニ關スル制限並私設ノ無線電信ノ通信ニ從事スル者ノ資格ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第四條 私設ノ無線電信及無線電話ハ其ノ施設ノ目的以外ニ使用スルコトヲ得ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ船舶遭難通信、氣象通信、報時通信其ノ他主務大臣ニ於テ公益上必要ト認ムル通信ニ限り之ヲ使用スルコトヲ妨ケス

第五條 外國船舶ニ裝置シタル無線電信又ハ無線電話ハ第二條ノ規定ニ依リ施設シタルモノヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ船舶遭難通信及航行中電信官署又ハ電話官署トノ通信ニ使用スルコトヲ妨ケス

第六條 主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ吏員ヲ派遣シテ其ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條 主務大臣ハ公衆通信上又ハ軍事上必要ト認ムルトキハ私設ノ無線電信、無線電話ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ設備ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第八條 主務大臣ハ公安ノ爲必要ト認ムルトキハ私設ノ無線電信、無線電話又ハ外國船舶ニ裝置シタル無線電信、無線電話ノ使用ノ制限、停止又ハ其ノ機器附屬具ノ除却ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ當該官吏ヲシテ機器附屬具ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ除却セシムルコトヲ得

第九條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ施設者本法、本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ其ノ無線電信、無線電話ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得



第十條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ノ施設者其ノ無線電信又ハ無線電話ノ許可ヲ取消サレタルトキハ主務大臣ノ命スル所ニ依リ其ノ機器工作物ヲ撤去スルコトヲ要ス私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第十一條 私設ノ無線電信、無線電話又ハ外國船舶ニ施設シタル無線電信、無線電話ハ船舶遭難通信ノ取扱ノ依頼ヲ受ケタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 無線電信又ハ無線電話ハ船舶遭難通信アリタル場合ニ於テハ直ニ應答シ救助上最便宜ノ位置ニ在ル無線電信又ハ無線電話ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テ特定ノ事項ノ通報ヲ求メラレタルトキハ前項ノ規定ニ依ラス直ニ其ノ通報ヲ爲スコトヲ要ス

第十三條 主務大臣ハ不法ニ無線電信又ハ無線電話ヲ施設スル者アリト認メタルトキハ當該官吏ヲシテ其ノ施設ノ場所ニ立入り機器工作物ノ検査、機器附屬具ノ除却其ノ他相當ノ措置ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條 政府ハ公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ノ施設ノ爲船舶ノ一部ヲ使用シ必要アルトキハ特殊ノ供給又ハ設備ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ相當ノ使用料及特殊ノ供給、設備ノ實費ハ請求ニ因リ政府之ヲ支給ス

第十五條 公衆通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ無線電信、無線電話、電信、電話、郵便、郵便爲替、郵便貯金ノ事務又ハ船舶遭難、報時、氣象報告ニ關スルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ無料ト爲スコトヲ得

第十六條 許可ナクシテ無線電信、無線電話ヲ施設シ若ハ許可ナクシテ施設シタル無線電信、無線電話ヲ使用シタル者又ハ許可ヲ取消サレタル後私設ノ無線電信、無線電話ヲ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

第十七條 私設ノ無線電信又ハ無線電話ヲ其ノ施設ノ目的以外ニ使用シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ無線電信又ハ無線電話ヲ他人ノ用ニ供シ因テ金錢物品ヲ收得シタルトキハ之ヲ沒收ス既ニ消費又ハ讓渡シタルトキハ其ノ金額又ハ代價ヲ追徴ス

私設ノ無線電信又ハ無線電話ニ依頼シ通信ヲ爲サシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス



第十八條 第五條ノ規定ニ違反シタル者又ハ本法ニ依ル無線電信、無線電話ノ使用ノ制限停止、設備變更若ハ除却撤去ノ命令ニ従ハサル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス無線電信、無線電話ノ事務ニ従事スル者使用ノ制限又ハ停止ニ違反シテ使用シタルトキハ其ノ従事者ニ付亦同シ

第十九條 第六條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ無線電信、無線電話ノ供用ヲ拒ミ又ハ第十四條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ船舶ノ使用ヲ拒ミ若ハ特殊ノ供給設備ヲ爲ササル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 電信官署又ハ電話官署ノ取扱中ニ係ル無線電信又ハ無線電話ノ通信ノ祕密ヲ侵シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ従事スル者前項ノ通信ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十一條 不法ニ無線電信、無線電話ニ關スル料金ヲ免レ又ハ他人ヲシテ之ヲ免レシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ従事スル者前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ

五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ虚偽ノ通信ヲ發シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

公益ヲ害スル目的ヲ以テ無線電信又ハ無線電話ニ依リ虚偽ノ通信ヲ發シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶遭難ノ事實ナキニ拘ラス無線電信又ハ無線電話ニ依リ船舶遭難通信ヲ發シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

無線電信又ハ無線電話ノ事務ニ従事スル者第一項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金、第二項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役、第三項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二十三條 無線電信ノ事務ニ従事スル者電信官署ノ取扱中ニ係ル無線電信ニ依ル電報ヲ正當ノ事由ナクシテ開披、毀損、隱匿若ハ放棄シタルトキ又ハ受取人ニ非サル者ニ交付シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第二百五十八條又ハ第二百五十九條ニ該當スル場合ハ刑法ノ例ニ依ル



第二十四條 無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

無線電信、無線電話ノ事務ニ從事スル者正當ノ事由ナクシテ第十一條若ハ第十二條ノ規定ニ依ル船舶遭難通信ノ取扱ヲ爲ササルトキ又ハ之ヲ遅延セシメタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

船舶遭難通信ノ取扱ヲ妨害シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十五條 無線電信、無線電話ニ依ル公衆通信若ハ軍事上必要ナル通信ヲ障碍シ又ハ之ヲ障碍スヘキ行爲ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 前十條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七條 本法ニ基キテ爲ス當該吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ第十三條ノ規定ニ依ル検査ノ際當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條 電信法第四條、第五條、第十一條乃至第二十一條、第二十三條、第二十四條及第

四十五條ノ規定ハ公衆通信又ハ軍事上必要ナル通信ノ用ニ供スル無線電信又ハ無線電話ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵奧平昌恭 散會ヲ命ス

散會 午前十一時五十分

第二回 大正四年六月一日

出席委員

委員長	伯爵	奧平昌恭	副委員長	男爵	有地品之允
委員	侯爵	中御門經恭	同	男爵	肝付兼行
同	同	藤田四郎	同	同	磯部四郎
出席政府委員			遞信次官		湯河元臣



遞信省通信局長	田中次郎
遞信省電氣局長	棟居喜九馬
遞信書記官	田邊治通

開會 午前十時十七分

○委員長伯爵奧平昌恭 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵奧平昌恭 散會ヲ命ス

散會 午前十一時九分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

無線電信法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月一日

右特別委員長

伯爵 奧平昌恭

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長	伯爵 奧平昌恭印
副委員長	男爵 有地品之允印



河川法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正四年六月一日議長ノ指名ヲ以テ河川法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- |    |       |
|----|-------|
| 候爵 | 花山院親家 |
| 子爵 | 野村益三  |
|    | 小野田元熙 |
| 男爵 | 杉溪言長  |
|    | 渡正元   |
| 男爵 | 安藤直雄  |
|    | 千頭清臣  |
|    | 細谷巖太郎 |
|    | 木村誓太郎 |

委員長及副委員長選舉

○大正四年六月二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ



會議

第一回 大正四年六月二日

出席委員

委員長

小野田元熙

副委員長

千頭清臣

委員

男爵

杉溪言長

同

細谷巖太郎

同

木村誓太郎

出席政府委員

內務省土木局長

小橋一太

開會 午後五時三十分

○委員長小野田元熙 開會ヲ宣告ス

(參照)

河川法中改正法律案

河川法中左ノ通改正ス

第二十六條中「地租額十分ノ一」ヲ「地價總額千分ノ二箇半」ニ、「地租額ヲ超過スル部分」ヲ「地價總額百分ノ二箇半ヲ超過スル部分」ニ、「前項」ヲ「第一項」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ニ於テ地價ト稱スルハ其ノ年分地租ヲ徵收スヘキ土地ノ一月一日現在地價ヲ謂フ

○委員小野田元熙 政府委員ヨリ本案提出ノ理由ヲ説明アラムコトヲ求ム

○政府委員小橋一太 茲ニ河川法中改正法律案提出ノ趣旨ヲ述ヘム既ニ了知セラルル如ク地租條例ハ明治四十三年法律第二號ヲ以テ改正セラレ宅地地租ハ地價百分ノ二箇半ニ田畑地租ハ地價百分ノ四箇七ニ其ノ他ノ土地ハ地價百分ノ五箇半ノ稅率ニ依リ賦課セラルルコトトナレリ而シテ河川法ハ河川改修費ヲ府縣ノ負擔ト爲シ其ノ負擔額一定ノ率ヲ超過スルトキハ國庫ハ其ノ幾分ヲ補助スルコトトシ其ノ府縣ノ負擔額ト國庫補助額トヲ定ムヘキ率ハ其ノ河川ノ屬スル府縣内ノ地租額ニ依リテ定メラル第二十六條ノ規定之ナリ然ルニ河川法制定ノ當時ハ地租ハ地價ノ百分ノ二箇半ニ當ルモノヲ賦課セラレシニ過キサリシヲ以テ明治四十三年ノ地租條例ノ改正ハ著シク地租ノ増徴ヲ來シ其ノ結果河川法ノ關係ニ於テハ大ニ府縣負擔ノ割合ヲ増加セシムルニ至レリ斯ノ如キハ元來河川法制定ノ本旨ニ反スルモノナルカ故ニ地租條例改正以前ノ率ニ依リ



府縣ノ負擔額ト國庫補助額トヲ定ムトスルモノナリ尙非常特別税法ノ施行ニ依リ地租ヲ増徴セラレタル際ニ於テモ河川法ノ規定ニ依リ府縣ノ負擔ヲ定ムルニ當リテモ非常特別税ノ部分ニ屬スルモノヲ除キ即舊來ノ如ク地租率ヲ地價百分ノ二箇半トシテ適用シ來リタリ

○委員木村誓太郎 本案ニ所謂地租ヲ徵收スヘキ土地トハ如何

○政府委員小橋一太 之ハ毎年大藏省ニテ免租トナルヘキ土地ヲ調査シ本條ノ適用ニ關シテ免租ノ額ヲ除キテ地租額ヲ定ム

○委員細谷巖太郎 然ラハ本案ハ地租條例改正前ノ狀態ニ復歸セシムルノ趣旨ニ出テタルニ非サルカ

○政府委員小橋一太 地租條例改正前ノ狀態ニ復スト謂ハムヨリハ寧現行ノ趣旨ヲ明ニスル爲ナリ

○委員小野田元熙 戰時ニ於ケル狀態ハ如何ナリシカ

○政府委員小橋一太 何等異ル所ナシ

○委員長小野田元熙 質問盡キタルヲ以テ本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長小野田元熙 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午後五時四十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

河川法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月二日

右特別委員長

小野田元熙

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長

小野田元熙印

副委員長

千頭清臣印







委員長及副委員長選舉

○大正四年六月二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	子爵	平田東助
副委員長	富井政章	

男爵	岡野敬次郎
田	健治郎
富井政章	
桑田熊藏	

會議

第一回 大正四年六月三日

出席委員

委員長	子爵	平田東助	副委員長	富井政章
委員	侯爵	細川護立	同	柳澤保惠
同	子爵	岡部長職	同	三島彌太郎

同	子爵	酒井忠亮	同	子爵	水野直
同	男爵	小澤武雄	同	男爵	有地品之允
同	同	奧田義人	同	男爵	中川興長
同	同	岡野敬次郎	同	男爵	田健治郎
同	同	桑田熊藏			

出席政府委員

法制局長官	高橋作衛
法制局參事官	馬場鏌一
司法省參事官	山内確三郎

開會 午後三時四十二分

○委員長子爵平田東助 開會ヲ宣告ス

(參照)

華族世襲財產法案

第一條 有爵者ハ世襲財產ヲ設定シ又ハ之ヲ增加スルコトヲ得



第二條 世襲財産ノ設定又ハ増加ハ遺言ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 有爵者カ未成年者、禁治産者又ハ準禁治産者ナルトキハ世襲財産ヲ設定又ハ増加スルコトヲ得ス

第四條 世襲財産ハ家實、不動産、登録國債又ハ有價證券ニ限ル

第五條 世襲財産ヲ設定又ハ増加セムトスルトキハ其ノ財産ノ目録ヲ添ヘ宮内大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

第二條ノ場合ニ於テ遺言者カ遺言執行者ヲ指定セサリシトキ又ハ其ノ指定ヲ第三者ニ委託セサリシトキハ家督相續人又ハ其ノ法定代理人ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 前條ノ申請アリタルトキハ宮内大臣ハ目録ニ記載シタル財産ヲ世襲財産ト爲スノ當否ヲ調査スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ宮内大臣ハ目録以外ノ財産ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第七條 宮内大臣ハ前條ノ調査ニ依リ支障ナシト認メタル財産ニ付第五條ノ認可ノ申請アリタル旨ヲ一週間公告スヘシ

前項ノ公告ニハ土地ニ付テハ其ノ所在地目及面積、建物ニ付テハ其ノ所在種類構造及建坪、其ノ他ノ物件ニ付テハ其ノ品目種類箇數其ノ他必要ナル事項ヲ掲クヘシ

第八條 前條ノ規定ニ依リ公告シタル財産ニ關シ所有權又ハ擔保權ヲ主張セムトスル者ハ前條第一項ノ公告期間満了ノ後二月内ニ異議ヲ宮内大臣ニ申出ツヘシ

世襲財産ノ設定又ハ増加ノ認可ハ前項ノ期間満了ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 世襲財産ノ設定又ハ増加ノ認可アリタル後ハ前條第一項ノ權利ハ判決又ハ認可前ノ日附アル公正證書ニ依リテノミ之ヲ主張スルコトヲ得

第十條 宮内大臣ハ世襲財産ノ設定又ハ増加ヲ認可シタルトキハ其ノ旨及第七條第二項ニ掲ケタル事項ヲ公告スヘシ

第十一條 宮内大臣ハ華族世襲財産臺帳ヲ設ケ世襲財産ニ關スル事項ヲ登録スヘシ

第十二條 世襲財産中登録國債アルトキハ國債登録簿ニ世襲財産タル旨ヲ登録シ有價證券アルトキハ宮内大臣ハ之ニ世襲財産タル旨ヲ記入スヘシ

第十三條 世襲財産ハ家督相續人之ヲ相續ス

第十四條 世襲財産ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ノ目的トスルコトヲ得ス世襲財産ノ法定果實ヲ收取



スル權利ニ付亦同シ

世襲財產ニ付地上權、永小作權又ハ地役權ヲ設定又ハ變更セムトスルトキハ宮内大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 世襲財產ハ之ヲ民事上ノ強制執行ノ目的ト爲スコトヲ得ス世襲財產ノ果實ニシテ他ノ財產ト混合セサル間亦同シ

第十六條 世襲財產ハ確實有利ナル世襲財產ニ換フル爲又ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限リ宮内大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ全部又ハ一部ヲ廢止スルコトヲ得

第二條、第三條及第五條ノ規定ハ世襲財產ノ廢止ニ之ヲ準用ス

第十七條 世襲財產ハ爵ノ喪失ト共ニ其ノ效力ヲ失フ

第十八條 世襲財產ニ付第九條ノ規定ニ依ル權利ノ主張アリタルトキハ其ノ世襲財產ハ效力ヲ失フ

第十九條 世襲財產ノ廢止、失效其ノ他ノ異動アリタルトキハ宮内大臣ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ公告ニ之ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ於テハ登錄國債又ハ有價證券ニ付第十二條ノ登錄又ハ記入ヲ抹消スヘシ

第二十條 世襲財產ニ關スル公告ノ費用ハ其ノ名義人ノ負擔トス

第二十一條 宮内大臣ハ必要アリト認ムルトキハ世襲財產ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 本法ノ施行ニ關スル規程ハ宮内大臣之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

従前ノ規定ニ依ル世襲財產及其ノ附屬物ハ本法ニ依ル世襲財產ト看做ス

不動産登記法第四百十三條中「華族世襲財產ノ解除ヲ認可シタルトキハ」ヲ「華族世襲財產ノ廢止又ハ失效アリタルトキハ」ニ改ム

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長子爵平田東助 散會ヲ命ス

散會 午後四時四十一分

(附記) 本案ハ大正四年六月七日政府ニ於テ之ヲ撤回セリ

委員長 子爵 平田 東助印  
副委員長 富井 政章印



法人ノ役員處罰ニ關スル法律案特別委員會

委員選舉

○大正四年六月一日議長ノ指名ヲ以テ法人ノ役員處罰ニ關スル法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- |    |       |     |
|----|-------|-----|
| 伯爵 | 松平    | 賴壽  |
| 子爵 | 本多    | 實方  |
| 子爵 | 勘解由小路 | 資承  |
| 男爵 | 伊丹    | 春雄  |
| 男爵 | 黑田    | 長和  |
| 男爵 | 二條    | 正麿  |
|    | 加太    | 邦憲  |
|    | 倉知    | 鐵吉  |
|    | 森田    | 庄兵衛 |

委員長及副委員選舉

法人ノ役員處罰ニ關スル法律案特別委員會



○大正四年六月三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	松平	賴壽
副委員長		加太	邦憲

會議

第一回 大正四年六月三日

出席委員

委員長	伯爵	松平	賴壽	副委員長	加太	邦憲	
委員	子爵	本多	實方	同	子爵	勘解由小路	資承
同	男爵	伊丹	春雄	同	男爵	黑田	長和
同	男爵	二條	正麿				

出席政府委員

司法次官	鈴木喜三郎
司法省法務局長	豐島直通
司法省參事官	山内確三郎

開會 午前十時五分

○委員長伯爵松平賴壽 開會ヲ宣告ス

(參照)

法人ノ役員處罰ニ關スル法律案

法人ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、理事、監查役又ハ監事ニシテ刑事訴追又ハ刑ノ執行ヲ免レシムル爲合併其ノ他ノ方法ニ依リ法人ヲ消滅セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

附則

本法ハ大正四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○委員伯爵松平賴壽 本案ニ付政府委員ノ説明ヲ求ム

○政府委員鈴木喜三郎 本案提出ノ大體ノ理由ヲ述ヘム法人カ法人處罰規定ニ違反シタル場合ニ之ヲ罰セムトスルニ當リ法人ノ業務執行者タル社員、取締役、理事、監查役又ハ監事ハ忽チ法人ノ合併決議又ハ財産ノ一括處分ヲ爲シテ犯罪ノ主體タル法人ヲ消滅セシメ以テ巧ニ刑事訴追又ハ刑ノ執行ヲ免レ從テ國家ハ處罰ノ目的ヲ達スルヲ得サルコト之アリ其ノ實例ヲ舉クレハ九州ニ於テ或「トロール」會社ニ於テ刑罰法規ニ違反ノ行爲アリシヲ以テ處分セムトセシニ何時ノ



問ニカ合併決議ヲ爲シテ其ノ法人ヲ消滅セシメシヲ以テ遂ニ處分スルヲ得サラシメタリ又東京ニ於テモ或肥料會社ハ恰同様ノ事ヲ爲シタルコトアリ而シテ斯カル事例アリシニ拘ラス之ヲ從前ノ儘ニ放置スルトキハ同様ノ不正手段ニ倣フモノ續出スルニ至リ法人處罰規定ヲシテ空文ニ歸セシムルノ虞アリ故ニ斯カル場合ニハ法人ヲシテ刑ヲ免レシムル爲之ヲ消滅セシメタル役員ヲ罰シ以テ法人ニ對スル罰則ノ效用ヲ完カラシメムト是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

○委員加太邦憲 法人處罰ニ關スル法文アリヤ

○政府委員鈴木喜三郎 法人ヲ罰スル規定ニハ明治三十三年法律第五十二號アリ而シテ此ノ法律ヲ準用スル法律ハ其ノ種類頗多シ其ノ主ナルモノヲ列舉スレハ銃砲火藥類取締法、藥品營業並藥品取扱規則、畜牛結核病豫防法、工業用酒精酒類其他酒精含有飲料戻稅法、煙草專賣法、粗製樟腦樟腦油專賣法、鹽專賣法、肥料取締法等ニシテ又此ノ外法律命令自體ニ於テ法人ノ罰則ヲ規定セルモノ即明治三十三年法律第五十二號ト同様ノ形式ヲ有スルモノニハ毒物劇物營業取締規則、「メチールアルコホル」(木精)取締規則、肺結核豫防ニ關スル件、牛乳營業取締規則、屠場法等アリ

○委員男爵黑田長和 本案ニ於テ刑期ヲ五年以下ト規定シタル根據ハ何レニ在リヤ

○政府委員鈴木喜三郎 家資分散ノ際財産ヲ隱匿シタル者ノ罪ニ則リ之ヨリ重クスル必要アリト認メタルニ由ル

○委員男爵黑田長和 刑期ノ規定ハ最短ノ制限ヲ置クノ必要ナキカ

○政府委員鈴木喜三郎 刑期ハ最長ノ制限ヲ定メテ最短ノ制限ヲ定メサルハ他ニモ例アリ而シテ實際ノ取扱ニハ毫モ差支ナシ

○委員男爵黑田長和 法人カ合併シタル場合ハ其ノ法人ハ犯罪ニ付刑ヲ免ルルカ

○政府委員鈴木喜三郎 法人カ合併スルトキハ即犯罪主體消滅スルヲ以テ罰スルコト能ハス又刑罰確定スルモ合併後ハ新會社ニ對シテ之ヲ執行スルコトヲ得ス

○委員男爵黑田長和 法人ノ爲ニ損害ヲ受ケタル者ハ法人カ合併ヲ行ヒタル後ハ損害ノ賠償ヲ請求シ得ルカ

○政府委員鈴木喜三郎 合併前ニ存在シタル法人ハ消滅ス故ニ之ニ對シテ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス又其ノ取締役ニ對シテモ請求スルヲ得サルヘシ

○政府委員山内確三郎 民法上ノ關係ニテハ會社合併ノ場合ハ新會社ニ對シテ損害ノ賠償ヲ請求シ得ルモ刑罰ニ付テハ訴追ノ道ナシ故ニ本案ヲ提出シタルナリ



○委員男爵黑田長和 本案ニ所謂其ノ他ノ方法ニ依リトハ如何ナル方法ヲ指スヤ  
 ○政府委員山内確三郎 合名會社、合資會社ハ人ノ信用ヲ基礎トシテ成立スルモノナレハ一括シテ讓與スレハ會社ハ直ニ消滅スルモノナリ其ノ他ノ方法トハ斯カル場合ヲ指スモノト解シテ可ナリ

○委員長伯爵松平賴壽 本案ニ對シ委員ノ意見ヲ述ヘラレムコトヲ求ム

○委員男爵黑田長和 今日迄斯カル處罰規定ノ存セサリシハ大ナル闕陥ト謂ハサルヘカラス故ニ本員ハ本案ノ可決ヲ希望ス

○委員長伯爵松平賴壽 本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長伯爵松平賴壽 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午前十時三十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

法人ノ役員處罰ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月三日

右特別委員長

伯爵 松平 賴壽

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 松平 賴壽印

副委員長 加太 邦 憲印



大正四年六月三日  
鐵道敷設法中改正法律案特別委員會  
委員選舉

鐵道敷設法中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正四年六月一日議長ノ指名ヲ以テ鐵道敷設法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- 公爵 二條基弘
- 伯爵 清閑寺經房
- 子爵 松平直平
- 子爵 京極高備
- 子爵 豐岡圭資
- 男爵 古市公威
- 男爵 福原俊丸
- 海江田準一郎
- 廣瀨滿正

委員長及副委員長選舉

○大正四年六月四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ



會議

第一回 大正四年六月四日

出席委員

委員長	公爵 二條 基弘	副委員長	古市 公威
委員	伯爵 清閑 寺經房	同	子爵 松平 直平
同	子爵 京極 高備	同	子爵 豐岡 圭資
同	男爵 福原 俊九	同	海江田 準一郎
同	廣瀨 滿正		

出席政府委員

鐵道院總裁	仙石 貢
鐵道院理事	森本 邦治郎
鐵道院理事	大園 榮三郎

開會 午前十一時七分

○委員長公爵二條基弘 開會ヲ宣告ス

(參照)

鐵道敷設法中改正法律案

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第七條第一項第六號中「中新潟縣下新發田ヨリ村上ニ至ル鐵道」ヲ削ル

同項第二十二號中「香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下川之江ニ至ル鐵道」ヲ「香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下西條ニ至ル鐵道」ニ改ム

○政府委員仙石貢 既ニ配付ニ係ル印刷物ニ依テ了知セララルル如ク本案第七條第一項第六號ニハ羽越及岩越豫定線ノ内新潟縣下新發田ヨリ村上、山形縣下鶴岡、酒田、秋田縣下本庄ヲ經テ秋田ニ至ル鐵道中新潟縣下新發田ヨリ村上ニ至ル鐵道ヲ以テ第一期鐵道ト爲スヲ規定ス然ルニ新發田村上間ノ線路ハ既ニ敷設工事ヲ終リタルヲ以テ今回更ニ村上秋田間ヲ第一期線ト爲シ之ヲ敷設セムトスルモノナリ又同項第二十二號ニハ四國豫定線ノ内香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下今治ヲ經テ松山ニ至ル鐵道中香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下川之江ニ至ルモノヲ以テ第一期線ト爲



ス然ルニ本案ニ於テ第一期線ヲ愛媛縣下西條ニ至ル迄延長セムトスルハ川之江西條間ヲ新設セムトスルノ主旨ナリ

○委員伯爵清閑寺經房 政府委員ニ問フ新發田村上間ノ鐵道ハ既ニ竣功セリヤ

○政府委員仙石貢 然リ

○委員古市公威 秋田村上間及川之江西條間鐵道ノ收益ノ豫想如何

○政府委員仙石貢 秋田村上間ハ營業費五十二萬八千圓ヲ川之江西條間ハ營業費八十二萬圓餘ヲ要スルニ對シ何レモ三分六厘強ノ收益アリ

○委員男爵福原俊丸 本案ノ鐵道ハ如何ナル種類ノモノヲ敷設セムトスルカ

○政府委員仙石貢 此ノ二者ハ何レモ輕便鐵道ニ屬スルモノナレハ軌條材料等ハ東海道線等ニ比シ幾分カ輕キモノヲ使用スルノ計畫ナリ然レトモ通俗ニ所謂輕便鐵道ノ如キモノヲ敷設スルニ非ス

○委員男爵福原俊丸 西條松山間ニハ既ニ私設鐵道ヲ免許セルカ如何

○政府委員仙石貢 然リ其ノ區間ニハ既ニ私設鐵道ヲ免許セルヲ以テ私人ニ於テ敷設權ヲ有ス

○委員廣瀨滿正 其ノ私設鐵道敷設ノ免許ハ何時頃與ヘタルモノナリヤ又其ノ竣工期限ハ如何

○政府委員仙石貢 大正二年八月九日ニ假免許ヲ與ヘ工事施行認可申請期限ヲ大正三年八月八日トセリ然ルニ大正四年四月八日迄之カ第一回ノ延期ヲ申請シタルニ對シ之ニ許可ヲ與ヘ更ニ大正五年五月八日迄之カ第二回ノ延期ヲ許可シタリ

○委員廣瀨滿正 政府カ延期ヲ許可シタルニ更ニ期間終了セムトスルニ際シ重テ延期ヲ申請セハ當局ハ之ヲ許可スルノ意見ナリヤ

○政府委員仙石貢 延期ノ事由ト其ノ時ニ於ケル會社ノ狀況トヲ斟酌シテ許可ヲ決スル筈ナリ

○委員廣瀨滿正 西條松山間ニ輕便鐵道敷設ノ免許ヲ與ヘタル際ニハ既ニ川之江西條間ハ第一期線ニ繰入レラルヘキモノト決定アリタリシヤ

○政府委員仙石貢 然リ

○委員長公爵二條基弘 他ニ質問ナキヤヲ諮フ

質問ナシ

○委員長公爵二條基弘 本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長公爵二條基弘 散會ヲ命ス



散會 午前十一時二十七分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

鐵道敷設法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月四日

右特別委員長

公爵 二條 基 弘

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 公爵 二條 基 弘印

副委員長 古市 公 威印

治水費資金特別會計法廢止法律案特別委員會

大正三年臨時事件ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債發行ニ關スル法律案特別委員會

帝國鐵道會計法中改正法律案特別委員會

國債整理基金特別會計法中改正法律案特別委員會

作業會計法中改正法律案特別委員會

造幣局特別會計法案特別委員會

貨幣整理資金特別會計法廢止法律案特別委員會

軍艦水雷艇補充基金特別會計法廢止法律案特別委員會

明治四十一年法律第十五號廢止法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正四年六月一日議長ノ指名ヲ以テ治水費資金特別會計法廢止法律案、大正三年臨時事件ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債發行ニ關スル法律案、帝國鐵道會計法中改正法律案、國債整理基金特別會計法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ



伯爵	寺島誠一郎
子爵	牧野忠篤
子爵	前田利定
子爵	榎本武憲
男爵	久保田讓
男爵	江木千之
男爵	目賀田種太郎
男爵	郷誠之助
仁尾	惟茂
石渡	敏一
勝田	主計
水野	鍊太郎
田中	源太郎
土居	通博

安田善三郎

(附記)

作業會計法中改正法律案、造幣局特別會計法案、貨幣整理資金特別會計法廢止法律案、大正四年六月二日、軍艦水雷艇補充基金特別會計法廢止法律案、明治四十一年法律第十五號廢止法律案、大正四年六月四日連繫事件トシテ其ノ審査ヲ治水費資金特別會計法廢止法律案、大正三年臨時事件ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債發行ニ關スル法律案、帝國鐵道會計法中改正法律案、國債整理基金特別會計法中改正法律案特別委員ニ付託セラレ

○大正四年六月二日男爵郷誠之助委員ヲ辭任ス其ノ補闕トシテ議長ハ同日男爵眞鍋斌ヲ委員ニ選定ス

委員長及副委員長選舉

○大正四年六月二日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	寺島誠一郎
副委員長	子爵	前田利定

第一回會議



第一回 大正四年六月三日

出席委員

委員長	伯爵	寺島誠一郎	副委員長	子爵	前田利定
委員	子爵	牧野忠篤	同	子爵	榎本武憲
同	男爵	久保田讓	同	男爵	江木千之
同	男爵	目賀田種太郎	同	男爵	眞鍋斌
同	同	仁尾惟茂	同	同	石渡敏一
同	同	水野鍊太郎	同	同	田中源太郎
同	同	土居通博	同	同	安田善三郎
出席國務大臣			大藏大臣		若槻禮次郎
出席政府委員			大藏次官		濱口雄幸
			大藏省理財局長		神野勝之助

開會 午前九時七分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

(參照)

治水費資金特別會計法廢止法律案

治水費資金特別會計法ハ大正四年度限り之ヲ廢止ス

治水費資金特別會計ニ屬スル資金及債務ハ之ヲ一般會計ニ歸屬セシム

大正三年臨時事件ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債發行ニ關スル法律案

大正三年臨時事件ニ關スル一時賜金トシテ交付スル爲政府ハ額面二千四百萬圓ヲ限り五分利付

公債ヲ發行スルコトヲ得

附則

大藏省主計局長	市來乙彦
大藏書記官	西野元
大藏書記官	小野義一
專賣局長官	櫻井鐵太郎



本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

帝國鐵道會計法中改正法律案

帝國鐵道會計法中左ノ通改正ス

第二條中「又ハ」ノ下ニ「一般會計」ヲ加フ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國債整理基金特別會計法中改正法律案

國債整理基金特別會計法中左ノ通改正ス

第二條第二項ヲ左ノ如ク改ム

前項繰入額ノ中國債ノ元金償還ニ充ツヘキ金額ハ他ノ特別會計ヨリ繰入ルモノヲ併セテ前年度首ニ於ケル國債總額ノ萬分ノ百十六以上トシ三千萬圓ヲ下ルコトヲ得サルモノトス  
前項ノ規定ノ適用ニ付テハ大藏省證券及借入金ハ之ヲ國債ト看做サス

附則

本法ハ大正四年度ヨリ之ヲ施行ス

作業會計法中改正法律案

作業會計法中左ノ通改正ス

第一條中左ノ如ク改ム

第一 削除

第四 削除

第二條第五項ヲ左ノ如ク改ム

專賣局据置運轉資本ハ千萬圓トス

附則

本法中第一條中ノ改正ニ關スル規定ハ大正五年度ヨリ之ヲ施行ス但シ大正四年度分ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

造幣局特別會計法案

第一條 造幣局ノ事業ヲ經營スル爲固定資本、据置運轉資本及資金ヲ置キ作業上ノ收入、附屬雜收入及資金ニ屬スル收入ヲ以テ歲入ト爲シ作業ノ費用及資金ニ屬スル支出ヲ以テ歲出ト爲シ特別ノ會計ヲ立テシム



第二條 造幣局ニ於テ從來使用シ及將來増加スル所ノ土地、建物、築造、機械、重要ナル器具及標本ヲ以テ固定資本トシ從來ノ据置運轉資本ヲ以テ据置運轉資本トス  
資金ハ大正四年度末現在ノ貨幣整理資金特別會計所屬ノ資金ヲ以テ之ニ充テ舊貨幣及流通不便貨幣ノ交換及處分ニ關スル用途ニ使用ス

第三條 固定資本ノ維持、修理及補充ハ作業上ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第四條 本會計ニ於ケル作業上ノ歳出額ハ其ノ實際ノ歳入及据置運轉資本ノ合計額ヲ超過スルコトヲ許サス

第五條 資金ニ屬スル收入支出ハ別途ノ歳入歳出トシテ之ヲ整理スヘシ

第六條 作業上ノ純益ハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第七條 資金ノ收入支出ノ決算上過剩ヲ生シタルトキハ之ヲ該資金ニ編入スヘシ

第八條 固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代金ハ之ヲ一般ノ歳入ニ編入スヘシ

第九條 政府ハ毎年本特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ之ヲ帝國議會

ニ提出スヘシ

第十條 本會計ノ收入支出ニ關スル規程ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法ハ大正五年度ヨリ之ヲ施行ス

貨幣整理資金特別會計法廢止法律案

貨幣整理資金特別會計法ハ大正四年度限り之ヲ廢止ス

軍艦水雷艇補充基金特別會計法廢止法律案

軍艦水雷艇補充基金特別會計法ハ大正四年度限り之ヲ廢止ス

明治四十一年法律第十五號廢止法律案

明治四十一年法律第十五號ハ大正四年度限り之ヲ廢止ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス以下倣之

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午前十時十二分

第二回 大正四年六月四日

出席委員

委員長 伯爵 寺島誠一郎

副委員長子爵

前田

利定



委員	子爵	牧野	忠篤	同	子爵	榎本	武憲
同	男爵	久保田	讓	同		江木	千之
同	男爵	目賀田	種太郎	同	男爵	真鍋	斌
同		仁尾	惟茂	同		石渡	敏一
同		水野	鍊太郎	同		田中源	太郎
同		土居	通博				

出席國務大臣

大藏大臣	若槻禮次郎
------	-------

出席政府委員

鐵道院理事	森本邦治郎
大藏次官	濱口雄幸
大藏省理財局長	神野勝之助
大藏省主計局長	市來乙彦
大藏書記官	西野元

大藏書記官	小野義一
專賣局長官	櫻井鐵太郎
遞信書記官	中西四郎

開會 午後三時二十三分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午後五時二十五分

第三回 大正四年六月五日

出席委員

委員長	伯爵	寺島誠一郎	副委員長	子爵	前田利定
委員	子爵	牧野忠篤	同	子爵	榎本武憲
同		江木千之	同	男爵	目賀田種太郎
同	男爵	真鍋斌	同		仁尾惟茂
同		石渡敏一	同		水野鍊太郎



同

田中源太郎

同

土居通博

出席國務大臣

大藏大臣

若槻禮次郎

農商務大臣

河野廣中

出席政府委員

鐵道院總裁

仙石貢

鐵道院理事

森本邦治郎

內務次官

下岡忠治

大藏省理財局長

神野勝之助

大藏書記官

小野義一

專賣局長官

櫻井鐵太郎

農商務次官

上山滿之進

農商務省水產局長

松崎壽三

遞信書記官

中西四郎

開會 午後三時二十六分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午後五時三十三分

第四回 大正四年六月六日

出席委員

委員長 伯爵 寺島誠一郎 副委員長子爵 前田利定

委員 子爵 牧野忠篤 同 子爵 榎本武憲

同 江木千之 同 男爵 目賀田種太郎

同 男爵 眞鍋斌 同 同 仁尾惟茂

同 石渡敏一 同 同 水野鍊太郎

同 田中源太郎 同 同 土居通博

同 安田善三郎

出席國務大臣



出席政府委員

大藏大臣	若槻禮次郎
鐵道院總裁	仙石貢
鐵道院副總裁	古川阪次郎
鐵道院理事	森本邦治郎
大藏次官	濱口雄幸
大藏省理財局長	神野勝之助
大藏省主計局長	市來乙彦
大藏書記官	西野元
大藏書記官	小野義一
專賣局長官	櫻井鐵太郎
農商務省山林局長	岡本英太郎
逓信書記官	田邊治通

開會 午後三時四分

○委員長伯爵寺島誠一郎 開會ヲ宣告ス

○委員長伯爵寺島誠一郎 散會ヲ命ス

散會 午後四時四十二分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正三年臨時事件ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債發行ニ關スル法律案

右可決スヘスキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月六日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

帝國鐵道會計法中改正法律案

右可決スヘスキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月六日

右特別委員長



貴族院議長公爵德川家達殿

國債整理基金特別會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月六日

伯爵 寺島誠一郎

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

作業會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月六日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

造幣局特別會計法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月六日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

貨幣整理資金特別會計法廢止法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月六日

右特別委員長

伯爵 寺島誠一郎

貴族院議長公爵德川家達殿

第五回 大正四年六月八日

出席委員



副委員長子爵	前田利定	委員子爵	牧野忠篤
同 子爵	榎本武憲	同	江木千之
同	仁尾惟茂	同	水野鍊太郎
同	田中源太郎	同	土居通博
同	安田善三郎		

出席政府委員

內務省土木局長	小橋一太
大藏省理財局長	神野勝之助
大藏書記官	西野元

開會 午後五時十五分

○副委員長子爵前田利定 開會ヲ宣告ス

○副委員長子爵前田利定 散會ヲ命ス

散會 午後六時五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル副委員長ノ報告左ノ如シ

治水費資金特別會計法廢止法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月八日

右特別委員副委員長

子爵 前田利定

貴族院議長公爵徳川家達殿

軍艦水雷艇補充基金特別會計法廢止法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月八日

右特別委員副委員長

子爵 前田利定

貴族院議長公爵徳川家達殿

明治四十一年法律第十五號廢止法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也



大正四年六月八日

右特別委員副委員長

子爵 前田 利 定

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長 伯爵 寺島誠一郎印

副委員長 子爵 前田 利 定印

大正四年勅令第十一號(承諾ヲ求ムル件)特別委員會

委員選舉

○大正四年六月一日議長ノ指名ヲ以テ大正四年勅令第十一號(承諾ヲ求ムル件)特別委員ヲ選定スル  
コト左ノ如シ

伯爵	吉井幸藏
子爵	青木信光
男爵	石黒忠憲
男爵	山名義路
	岡喜七郎
	阪本鈿之助
	橋本辰二郎
	福島文右衛門
	鈴木周三郎

委員長及副委員長選舉



○大正四年六月四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長	伯爵	吉井幸藏
副委員長	子爵	青木信光

會議

第一回 大正四年六月四日

出席委員

委員長	伯爵	吉井幸藏	副委員長	子爵	青木信光
委員	男爵	石黒忠憲	同	岡喜七郎	
同		阪本鈺之助	同	橋本辰二郎	
同		福島文右衛門	同	鈴木周三郎	

出席政府委員

內務次官	下岡忠治
內務省地方局長	渡邊勝三郎

開會 午前十一時十六分

○委員長伯爵吉井幸藏 開會ヲ宣告ス

(參照)

大正四年勅令十一號

本令公布ノ際衆議院議員選舉法第二十七條ニ依リ確定セル選舉人名簿ニ登録セラレタル者ハ同法第八條第三號ノ要件ニ異動ヲ生スルコトアルモ該名簿ニ依リ行フ選舉ニ限り選舉權ヲ失ハサルモノトス

○委員伯爵吉井幸藏 本案ニ付政府委員ノ説明アラムコトヲ求ム

○政府委員下岡忠治 營業税法及地租條例カ大正四年度ヨリ改正實施セララルコトナリタル結果選舉權者ノ納稅資格ニ多大ノ異動ヲ生シ既ニ選舉名簿ニ登録セラレタル者ニシテ選舉權ヲ失フ者多ク斯カル場合ニハ名簿ノ改訂ヲ爲スヘシト論スル者アラムモ明年四月末ニ至ラサレハ納稅ニ關スル諸般ノ調査ハ其ノ正確ヲ期スルコト能ハサルノ状態ニ在リ斯克一方ニハ納稅額ニ大異動アリ他方ニハ選舉期日前ニ其ノ異動額ヲ定ムルコト不能ナル事情アリ斯ノ如キ不完全ナル名簿ニ依リテ選舉ヲ執行スルニ於テハ選舉終了後ニ於ケル訴訟ノ簇出スヘキハ蓋容易ニ想像シ得ラルヘシ本案ハ此等ノ紛擾ヲ未然ニ防ク爲即社會ノ秩序公共ノ安全ヲ維持スルノ目的ヨリシ



テ本勅令ヲ發布セルナリ

○委員橋本辰二郎 營業稅額ノ決定ニ付テハ調査困難ニシテ其ノ完備ヲ得易カラサラムモ地租額ニ付テハ單ニ其ノ手數ノ繁雜ナリトカ又權衡ヲ得サルトカノ理由ヲ以テ之ヲ同一取扱ト爲シタルハ失當ナラスヤ尙十二月二十日ニ確定セル有權者ノ後ニ移動セル人數如何

○政府委員下岡忠治 地租ニ付テハ調査ハ絶對不可能ナルニ非サリシコトハ之ヲ首肯ス但シ市民ノ如キ營業稅ヲ納稅資格ノ主ト爲ス者ニ付テハ其ノ主ト爲ス方面ニ根據シテ地租モ包括シテ之ヲ一定セルナリ尙確定後ノ變動數ハ其ノ調査書ナキモ其ノ數ハ極メテ僅少ナルヘシ

○委員橋本辰二郎 廢業者物件賣買讓渡セル者ヲモ此ニ包括セルヤ

○政府委員下岡忠治 確定名簿ニ登録セル者一切トセル主義ヲ採リタリ

○委員阪本鈺之助 本令ノ制定ハ事實補闕選舉ノアルヘキ見込ヲ以テ爲サレタルカ

○政府委員下岡忠治 本令制定當時ニ於テハ其ノ想像ヲ有セルニ過キサリキ然ルニ今日ニ及テハ大阪裁判所ニ繫屬中ノモノアリ補闕選舉ニ付テモ向フ一箇年間ハ同シ土臺ノ上ニ立ツヲ可シト信ス

○委員岡喜七郎 本令ハ二様ノ意義アリヤ

○政府委員下岡忠治 然リ形式ニテ爲スコトトセルハ止ムヲ得サル結果ナリ

○委員岡喜七郎 本令ニテ衆議院議員選舉法ヲ改正シタルヤ

○政府委員下岡忠治 本令ノ規定ヲ永久的ノモノトスル精神ニアラス向フ一箇年間其ノ効力ヲ有セシムルモノナリ是レ形式主義ヲ採リタル自然ノ結果ナリ

○委員伯爵吉井幸藏 本令ノ施行日如何

○政府委員下岡忠治 大正四年二月二十三日施行セリ

○委員橋本辰二郎 三月二十日確定ノ有權者數如何

○政府委員下岡忠治 百五十四萬六千三百四十一人ナリ

○委員伯爵吉井幸藏 本案提出ノ時議場ニ於テ目賀田男爵ノ發セラレタル質問ニ對スル政府委員ノ所見如何

○政府委員下岡忠治 地租條例及營業稅法改正ノ際ニハ衆議院ノ解散ヲ豫想セサリシナリ其ノ豫想セサル解散ニ遭遇シタルカ故ニ本令ノ必要ヲ感シタルナリ目賀田男爵ノ質問ハ無理ナリト信ス

○委員橋本辰二郎 本令ハ永久的ナルヤ又衆議院議員選舉法ノ改正ハ次期議會ニ提出スルヤ



○政府委員下岡忠治 樞密院ニ於テハ永久的ニ之カ規定ヲ爲シテハ如何トノ意見モ出テタレトモ政府ハ一年限リノモノト爲セリ衆議院議員選舉法ヲ次期議會ニ提出スルヤ否ハ今爰ニ言明スルコトヲ得ス

○委員阪本鈺之助 本案ハ當時ノ事情已ムヲ得サルモノト認メ本員ハ贊成ス

○委員岡喜七郎 本員モ事情已ムヲ得サルモノト認ム

○委員橋本辰二郎 多少ノ無理ハアリシモ已ムヲ得サルモノトシテ承諾ヲ與フヘキモノト認ム

○委員長伯爵吉井幸藏 本案ハ承諾スヘキモノト議決シテ異議ナキヤヲ諮フ

異議ナシ

○委員長伯爵吉井幸藏 本案ハ全會一致ヲ以テ承諾ヲ與フルコトニ決シタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス散會 午後零時四分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

大正四年勅令第十一號

右承諾スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月四日

右特別委員長

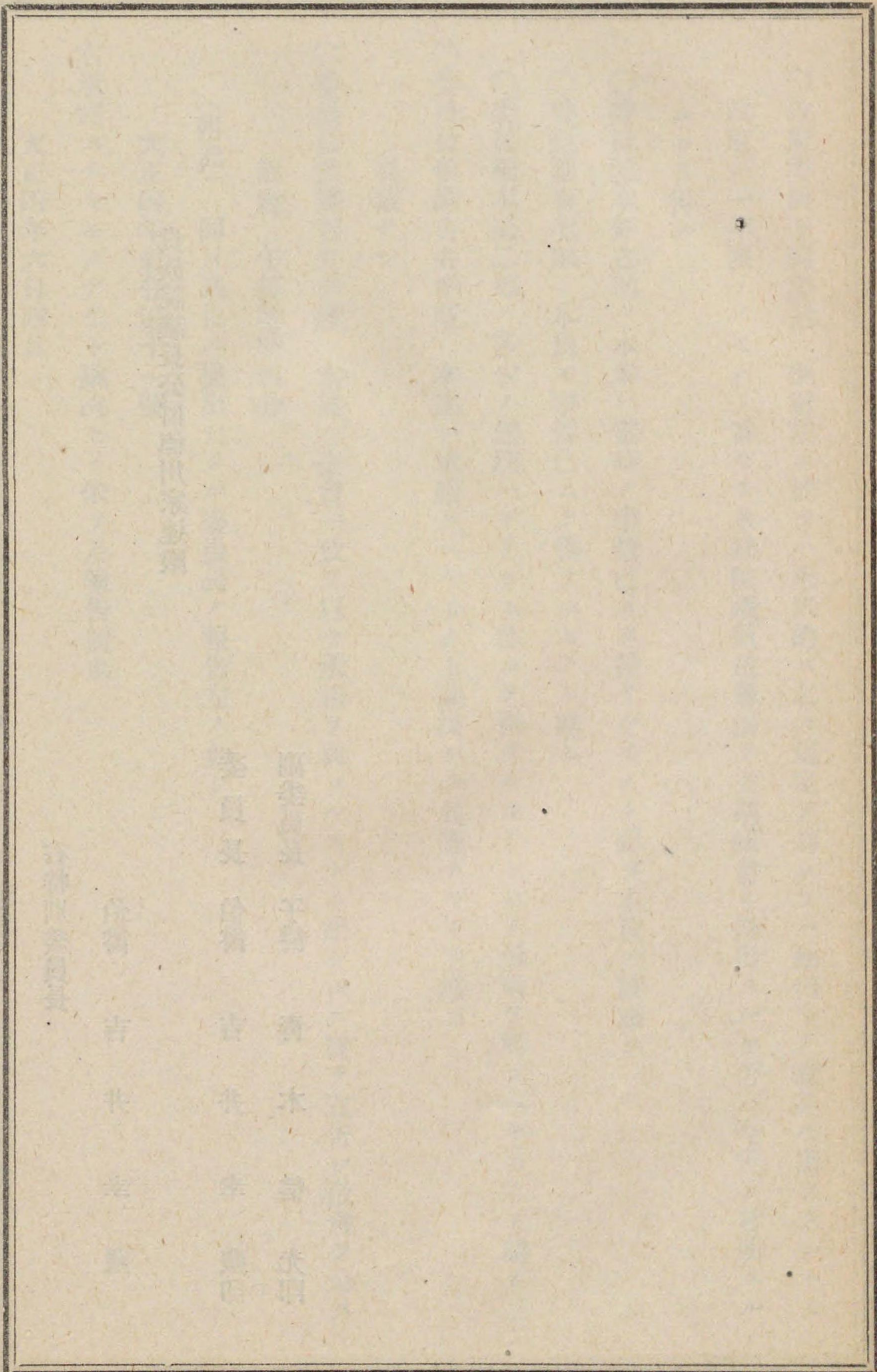
伯爵 吉井幸藏

貴族院議長公爵徳川家達殿

委員長 伯爵 吉井幸藏印

副委員長 子爵 青木信光印





帝國學士院學術獎勵金特別會計法廢止法律案特別委員會

帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ關スル法律案特別委員會

教育基金法案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正四年六月二日議長ノ指名ヲ以テ帝國學士院學術獎勵金特別會計法廢止法律案、帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ關スル法律案、教育基金法案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

- |    |    |   |    |
|----|----|---|----|
| 子爵 | 稻垣 | 太 | 祥  |
| 男爵 | 高木 | 兼 | 寛  |
| 男爵 | 東郷 |   | 安  |
|    | 石井 | 省 | 一郎 |
|    | 中島 | 永 | 元  |
|    | 岡田 | 良 | 平  |
|    | 木場 | 貞 | 長  |



委員長及副委員長選舉

○大正四年六月三日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

室田義文  
田島竹之助

委員長 子爵 稻垣太祥

副委員長 男爵 高木兼寛

會議

第一回 大正四年六月三日

出席委員

委員長 子爵 稻垣太祥 副委員長男爵 高木兼寛

委員 男爵 東郷安 同 石井省一郎

同 岡田良平 同 室田義文

同 田島竹之助

出席政府委員

大藏省主計局長 市來乙彦

文部次官 福原鎌二郎

文部省普通學務局長 田所美治

文部書記官 山崎達之輔

開會 午前十時十三分

○委員長子爵稻垣太祥 開會ヲ宣告ス

(參照)

帝國學士院學術獎勵金特別會計法廢止法律案

帝國學士院學術獎勵金特別會計法ハ大正四年度限り之ヲ廢止ス

帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ關スル法律案

帝國學士院ニ於テ學術研究獎勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ帝國學士院長ニ交付シ經理ヲ委任スル

コトヲ得

委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十六條ノ規定ニ依ル

附則



本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

帝國學士院學術獎勵金特別會計法ニ依リ帝國學士院長ニ經理ヲ委任セラレタル金額ノ支出殘額ハ本法ニ依リ經理ヲ委任セラレタルモノト看做ス

教育基金法案

第一條 教育基金ヲ置キ其ノ額ハ千八十萬圓トス

前項ノ基金ハ大正四年度末ノ教育基金特別會計所屬現金及漸次一般會計ヨリ繰入スル金額ヲ以テ之ニ充ツ

第二條 教育基金ハ之ヲ費消スルコトヲ得ス

第三條 教育基金ハ大藏省預金ニ寄託シ其ノ利子ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ普通教育費ニ使ス

附則

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

教育基金特別會計法ハ大正四年度限り之ヲ廢止ス

(附記) 本委員會議事ハ速記録ニ詳ナルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

○委員長子爵稻垣太祥 散會ヲ命ス

散會 午前十一時五十二分

第二回 大正四年六月七日

出席委員

委員長	子爵	稻垣	太祥	副委員長	男爵	高木	兼寬
委員	男爵	東郷	安	同	同	石井	省一郎
同	同	岡田	良平	同	同	木場	貞長
同	同	室田	義文	同	同	田島	竹之助
出席政府委員							
文部次官 福原 錄二郎							

開會 午前九時二十五分

○委員長子爵稻垣太祥 開會ヲ宣告シ帝國學士院學術獎勵金特別會計法廢止法律案及帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ關スル法律案ハ前回ニ於テ質問盡キタルモノト認メ兩案ヲ表決ニ付シテ異議ナキヤヲ諮ヒ異議ナカリシヲ以テ各案ヲ表決ニ付ス



可決

○委員長子爵稻垣太祥 兩案可決ノ旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午前九時三十分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

帝國學士院學術獎勵金特別會計法廢止法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月七日

右特別委員長

子爵 稻垣太祥

貴族院議長公爵德川家達殿

帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月七日

右特別委員長

子爵 稻垣太祥

貴族院議長公爵德川家達殿

(附記) 教育基金法案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長 子爵 稻垣太祥印

副委員長 男爵 高木兼寛印



明治三十三年法律第五十號中改正法律案特別委員會

委員選舉

○大正四年六月二日議長ノ指名ヲ以テ明治三十三年法律第五十號中改正法律案特別委員ヲ選定スル  
コト左ノ如シ

- |    |       |
|----|-------|
| 伯爵 | 川村鐵太郎 |
| 子爵 | 井伊直安  |
|    | 荒川義太郎 |
| 男爵 | 北島齊孝  |
|    | 小松謙次郎 |
| 男爵 | 辻健介   |
|    | 南弘    |
|    | 松原芳太郎 |
|    | 高崎三重郎 |

委員長及副委員長選舉



○大正四年六月四日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 荒川義太郎

副委員長 男爵 北島齊孝

會議

第一回 大正四年六月四日

出席委員

委員長 荒川義太郎 副委員長男爵 北島齊孝

委員 伯爵 川村鐵太郎 同 子爵 井伊直安

同 松原芳太郎 同 高崎三重郎

出席政府委員

爲替貯金局長 下村宏

開會 午前十一時十分

○委員長荒川義太郎 開會ヲ宣告ス

(參照)

明治三十三年法律第五十號中改正法律案

明治三十三年法律第五十號中左ノ通改正ス

第一項ヲ左ノ如ク改ム

鐵道、郵便、電信、電話官署ニ於テ取扱フ現金ノ出納ニ關スル事務ハ當該官署ノ事務員ヲシテ之ヲ分掌セシムルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○委員荒川義太郎 本案ニ付政府委員ノ説明ヲ求ム

○政府委員下村宏 郵便官署ニ於テハ明治四十三年ヨリ年金恩給等ノ支給事務ノ取扱ヲ爲シ又本年勅令第六號ニ依リ三月一日ヨリ歳入金ノ受入及歳出金ノ繰替拂事務ヲモ開始シ從來ノ郵便爲替、郵便貯金等ノ事務ト併セテ之ヲ取扱フコトナレリ而シテ是等ノ新ニ加ヘラレタル出納事務ハ會計法ノ規定ニ依リ出納官吏ノ責ニ歸スヘキモノナルモ斯クテハ實際ニ於テ甚シク支障ヲ生スルヲ以テ鐵道、郵便、電信、郵便爲替及郵便貯金ニ屬スル現金ノ出納ヲ當該官署ノ事務員ニ分掌セシムルノ現制ニ則リ之ヲ事務員ニ分掌セシムルノ道ヲ開カムト欲ス是レ本案ヲ提出シ



タル所以ナリ

○委員松原芳太郎 本案ニ所謂當該官署ノ事務員トハ三等郵便局長ヲモ含ムヤ

○政府委員下村宏 三等郵便局長ハ官吏ニシテ官吏服務規律ノ適用ヲ受ケ又其ノ部下ノ掌リタル事務ニ付テハ自ラ責任ヲ負フヘキモノナリ然レトモ三等郵便局ニ於ケル取扱件數ハ少數ナルヲ以テ當分ノ間ハ本案ノ規定ハ之ヲ三等郵便局ニハ適用セサル見込ナリ但シ將來三等郵便局ニ於テテ事務ノ増加スルニ於テハ之ヲ適用スルニ至ルヘシ之ニ反シテ一等郵便局及二等郵便局ニ於テハ取扱件數甚多キカ故ニ實際ニ事務ヲ分掌スル者ニ對シ責任ヲ有セシムルハ相當ノコトナリト信ス

○委員伯爵川村鐵太郎 本年三月郵便官署ニ於テ國庫金ノ受拂事務ヲ開始シテヨリ特ニ出納事務ノ増加ヲ來シ之カ爲ニ本案ヲ提出スルノ要ヲ見タリトノコトナルカ此ノ點ニ付詳細ナル説明ヲ求ム

○政府委員下村宏 年金恩給等ノ支給事務ハ明治四十三年以來郵便官署ノ職責ニ歸シ又國庫金出納事務ノ取扱ハ本年三月ヨリ擔任スルニ至レリ之カ爲ニ取扱件數非常ニ増加セルヲ以テ出納ノ事務ハ實際ニ於テ多數ノ事務員之ヲ行フニ非サレハ到底其ノ責ヲ全ウスルコトヲ得ス然ルニ之

カ責任ハ主任者タル出納官吏獨之ヲ負フヘキハ會計法ノ規定スル所ナリ斯ノ如キハ事務ノ増加シタル今日甚苛酷ナリ故ニ一二等郵便局ノ如ク數多ノ事務員カ各種ノ事務ヲ分掌スル場合ニハ是等ノ出納ヲ取扱フ所ノ者ヲシテ其ノ責任ヲ負ハシムルノ必要アリ

○委員男爵北島齊孝 本案ノ規定中ニ鐵道ニ於テ取扱フ出納事務ヲモ包含スル理由如何

○政府委員下村宏 各停車場等ニ於テ取扱フ出納ノ事務ノ件數モ増加シタレハ郵便官署ニ於ケルト同シク事務員ニ分掌セシムルヲ正當ト認メタレハナリ

○委員長荒川義太郎 質問盡キタルヲ以テ本案ヲ表決ニ付ス

可決

○委員長荒川義太郎 本案ハ全會一致ヲ以テ可決セラレタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス

散會 午前十一時三十五分

(附記) 同日議長ニ提出シタル委員長ノ報告左ノ如シ

明治三十三年法律第五十號中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正四年六月四日



右特別委員長

荒川義太郎

貴族院議長公爵德川家達殿

委員長

荒川義太郎印

副委員長

男爵 北島 齊 孝印

刑法中改正法律案特別委員會

刑事訴訟法中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正四年六月四日議長ノ指名ヲ以テ刑法中改正法律案、刑事訴訟法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

子爵	舟橋	遂賢
子爵	堀河	護磨
高崎	親章	
河村讓三郎		
男爵	新田忠純	
男爵	毛利五郎	
馬屋原彰		
加太邦憲		



委員長及副委員長選舉

○大正四年六月八日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

兒玉淳一郎

委員長 子爵

堀河護磨

副委員長

高崎親章

副委員長

會議

第一回 大正四年六月九日

出席委員

委員長 子爵 堀河護磨

副委員長

高崎親章

委員 河村讓三郎

同 男爵

毛利五郎

同 馬屋原彰

同

加太邦憲

同 兒玉淳一郎

出席政府委員

司法次官

鈴木喜三郎

司法省法務局長

豐島直通

開會 午前十時三十分

○委員長子爵堀河護磨 開會ヲ宣告シ兩案ヲ連テ問題ニ供ス

(參照)

刑法中改正法律案

刑法中左ノ通改正ス

第九十六條ノ二 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ刑事被告人其他ノ者ニ對シ恐嚇又ハ詐言ヲ用ヒタルトキハ三年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第九十條ノ二 檢事、司法警察官又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ搜查ノ爲メ作成シタル文書ハ裁判上ノ證據ト爲スコトヲ得ス但本法又ハ他ノ法律ニ於テ特ニ作成ス可キ旨ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス



○委員加太邦憲 衆議院ヨリ送付セル兩案ニ對スル政府委員ノ所見ヲ述ヘラレムコトヲ求ム

○政府委員鈴木喜三郎 一昨年ノ議會ニ於テ刑事訴訟法ニ關スル改正案衆議院ニ於テ發議セラレ委員會ノ審査終了スルニ至ラスシテ議會ノ閉會ト爲リ昨年ノ議會ニ於テハ刑法及刑事訴訟法中改正案即本案同趣旨ノ法案衆議院ヲ通過シタレトモ貴族院ニ於テハ其ノ審査ヲ終了スルニ至ラサリシ沿革ヲ有ス政府ハ本案ニ對シテハ絶對反對ノ意ヲ有ス其ノ理由ヲ述ヘム現行刑法中ニ裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行フ者職權濫用即瀆職ノ罪ヲ犯ストキハ之ヲ處罰スルノ條文アリ故ニ是ニ依リテ司法行政上懲戒ノ道ヲ取り得ヘク夫レ以上體刑罰金等ヲ課スル必要ナシト思惟ス若夫レ刑事訴訟ニ於テ些細ナル事件ニ至ル迄豫審ヲ開クニ於テハ事件ノ滯留ヲ來シ監獄費ノ増加ヲ見到底經費ノ堪フル所ニ非ス是レ政府カ本案ニ同意セサル所以ナリ近時動スレハ司法權濫用ヲ云云スルモノアリト雖是レ漫ニ斯カル事ヲ叫ヒテ自己ノ犯罪ノ搜索ヲ免レムトスル徒輩ノ所爲タルニ過キサルノミ當局ハ司法職權ヲ行フ者ノ公平ヲ期シ偶之ニ反スルモノアルトキハ嚴重ニ之ヲ處罰スルノ方針ヲ執リテ以テ法ノ威力ヲ保持スルコトニ努力シツツアリ

○委員加太邦憲 司法當局者カ熱心ナル餘リ或ハ其ノ取調ニ多少恐嚇詐言ヲ用ヒテ事實ノ自白ヲ速ナラシメムトスル者ナキニ非サルヘシ果シテ然リトセハ本案ノ如ク此等ノ字句ヲ挿入スルノ

必要ヲ認ムルコトナキヤ

○政府委員鈴木喜三郎 所謂理ニ落チル場合即理詰ニ依ルアリ此ノ理詰ナルモノハ恐嚇又ハ詐言ト其ノ意味ヲ同フセス故ニ刑法ニ據ラストモ所罰ノ方法在リ

○委員高崎親章 本案ハ單純ナル規定ナルモ司法權ノ威信ニ關シ事頗重大ナル問題ナリ恐嚇詐言ノ外司法當局者カ其ノ職務ヲ行フニ當リ爲スヘカラサル行爲アルヲ認メシ場合ナキカ

○政府委員鈴木喜三郎 司法警察官カ嫌疑者ヲ二三日抑留セシ事實アリ又不法ニ監禁セシ事實モアリタリ當局ハ是等ニ對シテハ夫夫免職處分ヲ行ヒタリ又主任檢事ニ對シテハ怠慢ノ廉ヲ以テ懲戒ヲ加ヘタリ終夜尋問歸宅不許可ハ人權蹂躪ナリトノ非難アルカ故ニ該夜中ニ尋問ヲ爲ササレハ逃亡スル虞アルカ或ハ共犯ノ關係上證據煙滅ノ虞アルカノ場合ノ外原則トシテ徹宵尋問又ハ深更ニ至ル迄ノ尋問ハ爲サシメス今回ノ衆議院議員ノ總選舉ニ際シ徹宵又ハ深更尋問等ヲ爲シタルコトアリト雖前ニ言フカ如キ事情アルカ故ニシテ其ノ他ノ場合ニ於テハ決シテ斯カル事實ナシ

○委員加太邦憲 今回ノ總選舉ニ際シ新聞紙ノ傳フル所ニ依レハ徹宵尋問又ハ二三日間連續的尋問等アリタリト謂フ如何



○政府委員鈴木喜三郎 夫ハ名古屋ノ事件ヲ指稱スルモノナラム然シ是レハ晝夜連續シテ尋問ヲ爲セシニ非ス之ヲ時間ニ換算スレハ三十幾時間ノ間斷的質問ヲ爲セシニ過キス

○委員兒玉淳一郎 此ノ刑法中改正法律案ノ提出原因ヲ考フルニ多少人權蹂躪等ノ嫌疑アル場合ヲ認メシヨリ由來スルニアラサルカ抑詐言ノ行爲ヲ用ヒタル場合ハ絶對ニ無カリシト謂フヤ又ハ無キニシモアラスト謂フヤ

○政府委員鈴木喜三郎 十年以前未警察制度ノ改良セラレサル時ニアリテハ或ハ斯カル非難ノ起ル無キヲ期セサルヘシ然レトモ今日ノ制度ニ於テハ拷問又ハ詐言ヲ以テ被告人ヲ罪ニ陥ルルコトハ決シテ之無シ前述ノ理詰ノ場合アルモ夫ハ詐言ト同意味ニ非ス

○委員高崎親章 本案刑法ノ改正ニ單ニ恐嚇、詐言ノミヲ云トアルハ未以テ十分ナリト謂フヘカラス本員ハ此ノ外ニモ刑法改正ノ必要ヲ認ムル條項ナキニアラサルヘシト信ス司法官ト行政官又ハ商業家ト工業家トノ軋轢ノ結果匿名ノ投書ヲ爲ス者アル場合ニ地位アリ名譽アルモノカ召喚訊問ヲ受ケ爲ニ終生拭ヒ得サル迷惑ヲ受タルニ至ル不幸ヲ蒙ルコトアリ殊ニ政黨ニ關係アルモノニ於テ然リ此等ノ場合ニ於テハ相當ノ制裁ヲ加フルノ必要アリト思惟ス本案ノ規定ノミヲ以テシテハ本員ノ憂慮スル點ニ對シ到底制裁ノ道ヲ開キ得サルカ如シ司法當局者ノ所見如

何

○政府委員鈴木喜三郎 苟司法官タルモノカ政黨政派ニ重ヲ置キ偏頗不公平ノ事ヲ敢テセムカ司法官ノ威嚴ハ地ヲ拂ヒテ失墜セム政黨如何ニ強盛ナルモ司法官ハ毅然トシテ此等政爭ノ圈外ニ立チ最嚴正ニ最公平ニ其ノ職ヲ執ルヘキナリ

○委員馬屋原彰 從來警察官吏ニシテ職權濫用又ハ不法行爲アリシカ爲ニ刑法ニ觸レタルモノアリヤ刑法改正後ノ最近例如何

○政府委員鈴木喜三郎 昨年ニ於ケル司法警察官ノ瀆職罪ノ種類ハ職權濫用ニ非ス即拷問ノ行爲ナリキ司法處分トシテハ昨年中ニ於テ僅ニ一二件ヲ算スルノミ裁判官檢事ニ就テハ絶對ニ無シ

○委員河村讓三郎 司法當局者カ司法警察官ノ職務ヲ正當ニ執行セシムルニ付平素十分ノ監督ヲ爲シツツアルコトハ常ニ吾人ノ聞知スル所ナリ政黨政派カ裁判上ニ其ノ影響ヲ及ホスニ於テハ事容易ナラサルヲ以テ特ニ注意セサル可カラス現今ノ狀態ニ於テハ裁判事務ノ執行上敢テ憂フヘキ事柄ナキカ如シ然リト雖或ハ被告ト爲リ或ハ被告ノ辯護ニ立テル者ノ眼ヨリ之ヲ見レハ職務執行上多少ノ疑ヲ存スル者ナキニ非ス其ノ結果斯ノ如キ不完全ナル法案ノ提出セラルルモノ



ナラムト思惟ス是レ寧職權執行ノ不安ヲ表白スル一種ノ案ナリ既ニ斯カル疑アル以上ハ本案ノ  
證議ノ機會ニ際シ本員ノ疑惑ヲ質スコトヲ得ムカト信スルヲ以テ此際秘密會ヲ要求ス

○委員長子爵堀河護麿 筆記ノ中止ヲ命ス

(筆記中止)

○委員長子爵堀河護麿 筆記ノ開始ヲ命ス

○委員男爵毛利五郎 名譽アリ相當ノ地位アル人ヲ召喚取調ヲ爲シタル場合ニ其ノ結果ハ無罪タル  
ルモ之カ爲ニ社會ノ疑惑ヲ受クルコト多キヲ以テ此等ノ人ニ對シテハ電話若ハ書面又ハ邸内等  
ニテ尋問スルノ方法ナキヤ

○政府委員鈴木喜三郎 其ノ點ニ付テハ下層者モ亦同シ名譽ノ毀損信用ノ失墜尙進テハ職務ヲ失  
フ等ノ場合ナキニアラス一旦刑事被告人トシテ立タムカ世間ニ對スル信用ハ洵ニ氣ノ毒ノ感ニ  
堪ヘス當局ニ於テモ深ク心ヲ痛メ居レリ

○委員男爵毛利五郎 保釋ニ付テノ慣例及保釋ノ程度如何

○政府委員鈴木喜三郎 保釋ノ標準ハ内外人ニ依リテ區別ナシ又其ノ許否ノ程度ハ事件取調ノ程  
度ニ準シ罪證煙滅ノ虞ナキモノ又ハ逃亡ノ心配ナキモノニ對シ保釋金ヲ納入セシメテ之ヲ許可

シ居レリ

○委員男爵毛利五郎 保釋金ヲ定ムルノ標準如何

○政府委員鈴木喜三郎 一定シタル標準ナシ

○委員加太邦憲 兩案トモ規定ノ内容頗重大ナル問題ナルヲ以テ本日ノ審査ハ之ニ止メ十分ニ熟  
議研究ヲ要スヘキモノナリト信ス

○委員長子爵堀河護麿 加太委員ノ動議ニ異議ナキヤヲ諮フ

異議ナシ

○委員長子爵堀河護麿 散會ヲ命ス

散會 午後零時十七分

(附記) 本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長	子爵	堀河	護麿
副委員長		高崎	親章



出征軍人家族廢兵戰病死者遺族救護ニ關スル建議案特別委員會

委員選舉

○大正四年六月五日議長ノ指名ヲ以テ出征軍人家族廢兵戰病死者遺族救護ニ關スル建議案特別委員  
ヲ選定スルコト左ノ如シ

- |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
| 男爵 | 男爵 | 男爵 | 子爵 | 子爵 | 伯爵 |
| 堀  | 武  | 江  | 外  | 梨  | 肝  |
| 正  | 石  | 原  | 松  | 羽  | 付  |
| 一  | 橋  | 素  | 孫  | 時  | 兼  |
|    | 次  | 六  | 太  | 起  | 行  |
|    |    |    | 郎  |    |    |
|    |    |    |    |    | 京  |
|    |    |    |    |    | 極  |
|    |    |    |    |    | 高  |
|    |    |    |    |    | 德  |
|    |    |    |    |    | 唐  |
|    |    |    |    |    | 橋  |
|    |    |    |    |    | 在  |
|    |    |    |    |    | 正  |
|    |    |    |    |    | 島  |
|    |    |    |    |    | 津  |
|    |    |    |    |    | 忠  |
|    |    |    |    |    | 磨  |

委員長及副委員長選舉



○大正四年六月五日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

委員長 伯爵 島津忠磨  
副委員長 男爵 外松孫太郎

會議

第一回 大正四年六月八日

出席委員

委員長	伯爵	島津忠磨	委員	子爵	唐橋在正
同	子爵	京極高德	同	男爵	肝付兼行
同	男爵	梨羽時起	同		江原素六
同		武石橋次	同		堀正一

出席委員外議員

高崎親章

出席政府委員

陸軍次官

大島健一

海軍次官

鈴木貫太郎

開會 午後五時十五分

○委員長伯爵島津忠磨 開會ヲ宣告ス

(參照)

出征軍人家族癡兵戰病死者遺族救護ニ關スル建議案

近時我國ハ數回ノ外戰ヲ見シニ出征軍人ノ家族ニシテ窮困見ルニ忍ヒサルモノ甚タ多シトス殊ニ癡兵及戰病死者ノ遺族ニシテ悲慘ナル境遇ニ沈淪スルモノ少カラサル誠ニ昭代ノ恨事ナリ是レ救護ノ法其ノ宜シキヲ得サルノ致ス所ナリ若之ニ對シ相當ノ方法ヲ講シ適切ナル救護ノ途ヲ立ツルニ非スムハ或ハ兵役ヲ避ケ軍事ヲ忌ミ遂ニ護國ノ根本的精神ニ動搖ヲ來タスノ虞ナシトセス政府ハ速ニ救護ノ方法ヲ調査シ適當ノ案ヲ立テラレムコトヲ望ム

右建議ス

○委員伯爵島津忠磨 本案ニ對スル政府ノ意見ヲ説明セラレムコトヲ求ム

○政府委員鈴木貫太郎 本議會ニ於テハ衆議院ニモ之ト同一趣旨ノ建議案提出セラレタリ海軍當局トシテハ財政ニ餘裕アラハ此ノ種ノ案件ニ對シテハ其ノ完備ヲ希望スル所ナルモ奈何セム目



下ノ財政狀態之ヲ許スニ至ラス殊ニ軍人恩給法改正ノ計畫アレハ本計畫成立スルニ於テハ此等遺族救護ノ目的ハ依リテ以テ達シ得ヘシト信スルナリ尙救護ノコトニ付テモ其ノ方法及程度ニ關シテハ詳密ナル研究ヲ要ス故ニ政府トシテハ本案ニ對シ今直ニ同意スルコト能ハサルナリ

○政府委員大島健一 本案ニ對シ研究ヲ要スヘキ問題ハ此ノ救護ナル用語ノ解釋如何又出征軍人家族癩病死者遺族ナル文字ノ意義及範圍如何ニ在リ目下癩病ニ對シテハ增加恩給ヲ與ヘ又戰死者ノ遺族ハ無論ノコト尙公務ノ爲避クヘカラサル病死者ノ遺族ニ對スル救護方法等モ一通成備セリ然レトモ唯少シク恩典薄キ嫌ナキ能ハサルヲ以テ目下軍人恩給法ノ改正モ提議サレツツアルナリ該案ニシテ兩院ヲ通過スルニ於テハ此等救護ノ目的モ達スルコトヲ得ムカト信ス然レトモ目下財政ノ關係上急ニ實施スルノ運ニ至リ難キヲ危ム次ニ出征中ノ軍人家族ニ對シテハ目下政府トシテハ何等救護ノ方法ヲ講シ居ラス唯軍人後援會、將校婦人會及愛國婦人會等ノ團體ノ事業トシテ其ノ援護ニ委シツツアリ明治三十七八年ノ戰役ニ際シ各府縣ニ於テハ出征軍人ノ遺族ヲ救護スル爲釀金シ在郷軍人並出征軍人家族ノ救護及扶助ニ充テシコトアリ現行ノ徵兵令ハ一家ノ生計ニ困難ナル者ニ對シ特ニ徵集ヲ延期シ得ルコトト爲リ居レリ要スルニ戰時出征者ノ家族保護ニ關シテハ其ノ程度及範圍モ判然セス從テ之ニ對シ確タル法令ヲ立案スルコト難

シ

○委員江原素六 富山縣下ニ於テ軍人家族ニシテ生計ノ困難ニ陥リ軍人後援會ヨリ毎月六圓ノ給與ヲ受ケツツアル者アリト謂フ又癩病ニシテ手足共ニ之ヲ失ヒ飲食座臥ニモ困窮スル者アリスカル者ニ對シテハ特別救護ノ方法ハ備リ居ラサルヤ

○政府委員大島健一 前者ノ如キ者ハ歸休セシムルコトヲ得後者ニ對シテハ前述ノ如ク增加恩給ヲ與ヘツツアリ

○委員江原素六 癩病院ニ容レハ恩給ヲ停止セララルヤ

○政府委員大島健一 然リ

○委員長伯爵島津忠磨 高崎親章君ヨリ發言ノ許可ヲ求メラル委員會ノ先例ニ依リ之ヲ許可シテ異議ナキヤヲ諮フ

異議ナシ

○委員外議員高崎親章 本員ハ戰死者ノ遺族ノ境遇ニ對シテハ年來心ヲ痛メツツアリ曾テ地方官タリシ時親シク悲惨ノ事實ヲ見聞シタルニ依リ政府ニ對シテ之カ救濟ノ意見ヲ提出シタルコト二回アリ元來軍人ニ對スル論功行賞ノ場合ニ生存者ニ厚クシテ死亡者ニ薄キハ甚不可ナリ戰功



者ニ對スル行賞ニ付テハ固ヨリ相當ノ規定アリ之ニ則リテ其ノ恩賞ノ行ハルルモノナルヘシ然レトモ同一ノ功績ニ付死者ニ對シテハ單ニ遺族ノ扶助アルノミニシテ生存者ニハ年金ヲ始メ位階アリ勳章アリ陞官其ノ他ノ恩典ヲ授ケラル今其ノ實例ヲ擧ケテ之ヲ論スルハ少シク憚ル所アルヲ以テ假設的ノ例ヲ示サムニ例ヘハ茲ニ年俸千五百圓ヲ受領スル佐官アリテ其ノ佐官ノ戰死スルコトアリトセハ其ノ遺族ハ該佐官ノ受領スル俸給額ノ三分ノ一五百圓ヲ受クルノミト爲ル是ニ於テ其ノ遺族ノ生活狀態ハ忽然從前ノ三分ノ一ニ縮少セサルヘカラス但シ戰死當座ハ名譽ノ戰死者ナリトテ社會之ヲ賞シ鄉黨之ヲ慰メ其ノ同情ト厚意トヲ以テ遇セラレルルモ年月ヲ經過スルニ從テ世上ノ忘却スル所ト爲リテ孤立ノ境遇ニ陥ル者多シ然ルニ同僚ニシテ同時ニ出征シ無事凱旋シタル者ハ位勳官等ノ陞叙アルノミナラス尙年金アリ爾後ノ累進アリ出入車馬ヲ驅リ夫妻同乘所謂榮譽ノ極限ヲ盡ス者ナキニアラス斯カル狀態ヲ目撃スル戰死將校ノ未亡人ノ感想果シテ如何我良人ニシテ若生存セハ今ハ彼ノ如キ榮位ニ在ルヘキコトヲ追想セム然ルニ戰死セムカ爲ニ遺兒ノ教育スラ尙十分ナル能ハス戰死遺族ノ不幸程憐ムヘキモノナシトノ嘆聲ヲ發スルナラム軍人遺族ヲシテ斯ノ如キ感想ヲ懷カシムルコトアリトセムカ出征軍人ハ其ノ生ヲ欲シテ其ノ死ヲ惜ムノ惡風ヲ生セシムルナキヲ保スヘカラス慨スヘキノ極ナラスヤ本員ハ深く考フ

ルニ今戰死者ノ爲ニ計ヲ立ムト欲セハ其ノ遺族ノ爲ニ計ルニ若クナシ遺族既ニ慰マハ戰死者ノ英靈亦慰ムヘシ而シテ遺族ニ對スル恩典ハ位階ナル能ハス又勳章ナル能ハサルヲ以テ單ニ一ノ金錢アルノミナリ現在生存者ニ給付スヘキ恩賞金ヲ轉シテ死者ノ遺族ニ給スルコトニセハ兩者ノ均衡ヲ得ルノミナラス財源亦餘アリテ國庫ノ累ヲ加フルモノニアラスト信ス

廢兵ニ付テハ現在廢病院ナルモノノ設備アルモ純然タル孤獨者ハ格別トシテ其ノ然ラサル者ヲ家庭ノ團欒ヲ離レシメテ廢病院ニ收容セシムルハ毫モ望マシカラサルコトナリ現在廢病院ニ起居スル者僅ニ五十五名ナリト謂フ其ノ創立ニ十二三萬ノ大金ヲ費シ年年經常費トシテ約三萬圓ヲ要スル斯カル設備ニ對シ僅ニ五十五名ヲ收容救護スルニ過キストハ餘リニ放漫ナル計畫ナラスヤ果シテ斯ノ如キモノナラムニハ宜シク之ヲ廢止シテ之ニ要スル其ノ費用ハ之ヲ廢兵ニ分配交付スル方寧適切ナル救護ナリト信ス元來建議ナルモノハ之ヲ採納スルト否トハ政府ノ任意ニ屬スル性質ヲ有スルモノナルヲ以テ此ノ案件カ單ニ建議トシテ提出セラレタルハ贊同スル能ハサル所ナリ本員尙一步ヲ進メムコトヲ希望ス

○委員子爵唐橋在正 高崎親章君ノ意見ハ法律案ノ形式ヲ以テ之ヲ提出セヨトノ趣旨ナリヤ

○委員外議員高崎親章 然リ



○委員子爵唐橋在正 本員モ此ノ問題ニ付テハ政府ニ對シ質問ヲ要スル點アレトモ今日ハ之ヲ見合セ他日ニ讓ルヘシ

○委員堀正一 斯カル重大ナル問題ハ十分研究シテ後之ヲ決スルヲ可ト信ス

○委員子爵京極高德 本問題ハ次期議會ニ至ルマテ十分ニ考慮スヘシ

○委員男爵梨羽時起 本問題ハ其ノ關係スル所極メテ廣ク又複雑ナルヲ以テ會期短キ此ノ議會ニ之ヲ速決スルコトヲ欲セス他日ニ讓リテ十分之ヲ攷究スヘキモノト信ス

○委員長伯爵島津忠麿 散會ヲ命ス

散會 午後六時

第二回 大正四年六月九日

出席委員

委員長 伯爵 島津 忠麿 委員 子爵 唐橋 在正

同 子爵 京極 高德 同 男爵 梨羽 時起

同 江原 素六

出席委員外議員

室田 義文

開會 午後二時十五分

○委員長伯爵島津忠麿 開會ヲ宣告ス

○委員子爵唐橋在正 本案ハ其ノ精神ニ於テハ可ナルモ尙考慮熟考ヲ要スル點多シ會期ノ短キ此ノ議會ニ今俄ニ之ヲ議決スルコトヲ欲セス延期シテ他日ノ懸案ト爲サム

○委員子爵京極高德 贊成

○委員長伯爵島津忠麿 室田義文君ヨリ發言ノ許可ヲ求メラル前例ニ依リ許可シテ異議ナキヤヲ諮フ

異議ナシ

○委員外議員室田義文 本案ニ付テハ本會議ニ於テ既ニ鎌田榮吉君ヨリ述フル所アリタリ曾テ

先帝ハ振天府ニ戰死者ノ寫眞ヲ集メサセ給ヒ寫眞ナキモノハ其ノ人名ヲ悉ク徵セザセ給ヒ天覽アラセラレ少時御手巾ヲ玉眼ニ當テ暗涙ニ咽セハセ給ヘリト拜承セリ叡旨既ニ斯ノ如シ其ノ振天府中ニ掲ケタル人人ノ遺族ニ對シ之ヲ救濟セムト欲スルハ國民當然盡スヘキノ道ナリ海外各國ニ於テモ戰死者遺族ニ對シテハ諸賦課ヲ免除スルトカ學費ヲ徵收セストカ其ノ他ノ救濟方法



ハ備ハリ居ルトノコトナリ本建議ハ決シテ困難ナル問題ヲ惹起スルモノニ非ス要スルニ唯單ニ出征軍人家族癩兵及戰病死者遺族ノ爲ニ適當ナル救護ノ方法ヲ講セラレタシト求ムルニ過キス出來得ルコトナラハ今期ノ議會ニ於テ本案ノ通過セムコトヲ希望スルモ委員諸君ニシテ既ニ其ノ趣旨ニ贊同セラレ善意ノ延期ニ確定セラルル以上ハ本員モ敢テ異議ヲ表セス

○委員長伯爵島津忠磨 唐橋子爵ノ動議ニ異議ナキヤヲ諮フ  
異議ナシ

○委員長伯爵島津忠磨 唐橋子爵ノ發議ノ通決定シタル旨ヲ宣告シ散會ヲ命ス  
散會 午後二時三十分

(附記) 本案ハ本院ニ於テ之ヲ議決スルニ至ラスシテ議會ノ閉會トナレリ

委員長 伯爵 島津 忠磨 印  
副委員長 男爵 外松 孫太郎 印

無盡業法案特別委員會

貯蓄銀行條例中改正法律案特別委員會

營業稅法中改正法律案特別委員會

(附記) 右各特別委員會會議錄ハ便宜之ヲ一括ス

委員選舉

○大正四年六月五日議長ノ指名ヲ以テ無盡業法案、貯蓄銀行條例中改正法律案、營業稅法中改正法律案特別委員ヲ選定スルコト左ノ如シ

伯爵 林 博太郎  
男爵 尾崎 三良  
子爵 山口 弘達  
山本 達雄  
男爵 藤大路 親春  
男爵 眞田 幸世  
男爵 藤堂 高成



委員長及副委員長選舉

○大正四年六月六日委員長及副委員長ヲ互選ス其ノ結果左ノ如シ

石橋 謹二  
日高榮三郎

委員長 伯爵 林 博太郎  
副委員長 男爵 尾崎 三良

會議

第一回 大正四年六月六日

出席委員

委員長	伯爵	林 博太郎	副委員長	男爵	尾崎 三良
委員	子爵	山口 弘達	同	男爵	藤大路親春
同	男爵	眞田 幸世	同	男爵	藤堂 高成
同		石橋 謹二	同		日高榮三郎

出席政府委員

大藏 次官	濱 口 雄 幸
大藏書記官	森 俊 六 郎
大藏書記官	今 村 次 吉

開會 午前十時十二分

○委員長伯爵林博太郎 開會ヲ宣告ス

(參照)

無盡業法案

第一條 本法ニ於テ無盡ト稱スルハ一定ノ口數ト給付金額トヲ定メ定期ニ掛金ヲ拂込マシメ一口毎ニ抽籤入札其ノ他類似ノ方法ニ依リ掛金者ニ對シ金錢ノ給付ヲ爲スヲ謂フ無盡類似ノ方法ニ依リ金錢又ハ有價證券ノ給付ヲ爲スモノ亦同シ但シ賭博又ハ富籤ニ類似スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 無盡ノ營業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
營業トシテ無盡ノ管理ヲ爲スハ之ヲ無盡業ト看做ス

第三條 無盡業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ資本金額及營業所ヲ定メ主務大臣ニ申請スヘシ



無盡業ヲ營ム會社ノ資本又ハ財産ヲ目的トスル出資ノ總額ハ三萬圓其ノ金錢ヲ以テスル拂込金額ハ一萬五千圓ヲ下ルコトヲ得ス

第一項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ事業方法ヲ記載シタル書面及無盡契約約款ヲ添附シ會社ニ在リテハ尙定款ヲ添附スヘシ

第四條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

會社ニ非サル無盡業者ハ其ノ營業ヲ表示スル名稱ヲ附シ其ノ名稱中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

無盡業者ニ非サルモノハ其ノ商號又ハ營業ヲ表示スル名稱中ニ無盡ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條 無盡業ヲ營ム會社ハ他ノ事業ヲ兼營スルコトヲ得ス

會社ニ非サル無盡業者カ他ノ事業ヲ兼營セムトスルトキハ主務大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第六條 無盡業ノ營業區域ハ道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定メ會社ニ在リテハ定款中ニ其ノ他ノ者ニ在リテハ事業方法書中ニ之ヲ記載スヘシ

無盡業者ハ其ノ營業區域ヲ超エテ營業所若ハ代理店ヲ設置シ又ハ勸誘員若ハ募集員ヲ派スル

コトヲ得ス但シ營業區域外ノ者ヨリ申込アル場合ニ於テ之ト取引ヲ爲スコトヲ妨ケス

第七條 無盡業ヲ營ム會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八條 無盡業者カ資本金額、營業所、事業方法又ハ無盡契約約款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ會社カ定款ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ事業方法又ハ無盡契約約款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第九條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債證券、地方債證券其ノ他特別ノ法令ニ依リ設立シタル會社ノ債券又ハ株券ノ買入

二 前號ノ有價證券ヲ擔保トスル貸付

三 掛金者ニ對シ既ニ拂込ミタル掛金額ヲ限度トスル貸付

四 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金

第十條 無盡業ヲ營ム株式會社カ會社財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ無盡契約ニ基ク會社ノ債務ニ付各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責ニ任ス但シ取締役カ任務ヲ怠ラサリシコトヲ證明シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ責任ハ取締役カ退任ノ登記ヲ爲シタル後二年間仍存續ス



第十一條 無盡業者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス自己ノ計算ニ於テ其ノ經營スル無盡ニ加入スルコトヲ得ス

會社ニ非シテ無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ主務大臣ノ認許ヲ受ケタル場合ニ限り其ノ管理スル無盡ニ加入スルコトヲ得

第十二條 無盡業ヲ營ム會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監查役及使用人ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス自己ノ計算ニ於テ會社ト無盡契約ヲ爲シ又ハ會社ノ管理スル無盡ニ加入スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ會社ニ非サル無盡業者ノ使用人ニ付之ヲ準用ス

第十三條 無盡業者ハ無盡ノ缺口又ハ掛金ノ拂込ヲ爲ササル者アル場合ト雖第一回ノ抽籤入札ノ後ハ給付金額ヲ減少シ又ハ掛金額ヲ増加スルコトヲ得ス

第十四條 無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ掛金ノ拂込ナキ場合ニ於テ掛金者ニ代リ掛金ノ拂込ヲ爲ス責ニ任ス

第十五條 無盡ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

掛金ノ拂込又ハ給付金ノ支拂ニ關スル訴ニ於テハ無盡ノ管理者ハ原告又ハ被告ト爲ルコトヲ得

前項ノ訴ニ於テ言渡シタル判決ハ無盡ノ加入者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス但シ各加入者ハ拂込ヲ了セサル掛金額ヲ超エテ執行ヲ受クルコトナシ

第十六條 無盡業者ハ毎半年事業ノ報告書ヲ作り主務大臣ニ提出スヘシ

第十七條 無盡業者ハ毎半年ノ貸借對照表ヲ作り新聞紙又ハ事業方法書ニ定メタル方法ニ依リ之ヲ公告スヘシ

第十八條 無盡業者ハ各無盡ニ付抽籤入札ノ都度其ノ收支ノ計算ヲ帳簿ニ記載シ次回ノ抽籤入札ノ前日迄ニ之ヲ營業所ニ備ヘ置クヘシ

第十九條 掛金者ハ無盡業者ニ對シ營業時間内何時ニテモ前半年末貸借對照表ノ閱覽ヲ請求シ又ハ其ノ加入シタル無盡ノ掛金者五分ノ一以上ノ同意ヲ以テ前條ノ帳簿中其ノ加入シタル無盡ニ關スル部分ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 無盡業ヲ營ム會社ハ資本又ハ出資ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ



第二十一條 主務大臣ハ何時ニテモ無盡業者ヲシテ其ノ事業報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ無盡業者ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ掛金者ノ利益ヲ保護スル爲必要ト認ムルトキハ其ノ事業方法ノ變更又ハ事業ノ停止ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

無盡業者カ法令、定款又ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ事業ノ停止若ハ役員ノ改任ヲ命シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條 主務大臣ノ免許ヲ受ケスシテ無盡業ヲ營ミタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 左ノ場合ニ於テハ會社ニ非サル無盡業者又ハ無盡業ヲ營ム會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第五條、第八條第一項、第九條、第十一條、第十三條、第十六條乃至第十八條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第六條ノ規定ニ依リ定メタル營業區域外ニ於テ營業ヲ爲シタルトキ

三 第八條第二項又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ主務大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

四 正當ノ事由ナクシテ第十九條ノ閲覧ノ請求ヲ拒ミタルトキ

五 第二十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ妨ケタルトキ

第二十五條 第十二條ノ規定ニ違反シ無盡業者ト無盡契約ヲ爲シタル會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役若ハ使用人又ハ會社ニ非サル無盡業者ノ使用人ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

無盡業者前項ノ無盡契約ヲ爲シタルトキハ會社ニ非サル無盡業者又ハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第二十六條 第二十條ノ規定ニ違反シタルトキハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第二十七條 第四條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處ス

第二十八條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

第二十九條 本法中主務大臣ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得



附則

第三十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 本法施行ノ際現ニ無盡業ヲ營ム者ハ本法施行前ニ爲シタル無盡契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第十五條、第十六條、第十八條、第二十一條乃至第二十四條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 本法施行ノ際迄六月以上引續キ他ノ事業ト共ニ無盡業ヲ營ム會社カ無盡業ノ免許ヲ申請シ之ヲ免許スル場合ニ於テ主務大臣ハ其ノ免許ト共ニ五年内ノ期間ヲ定メ其ノ營業ル他ノ事業ノ兼營ヲ認許スルコトヲ得

第三十三條 本法施行ノ際迄六月以上引續キ二箇以上ノ道府縣ニ互リ無盡業ヲ營ム者カ無盡業ノ免許ヲ申請シ之ヲ免許スル場合ニ於テ主務大臣ハ其ノ免許ト共ニ五年内ノ期間ヲ定メ其ノ營業區域外ニ於ケル營業ノ繼續ヲ認許スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認許ヲ受ケ其ノ營業區域外ニ於テ爲シタル無盡契約ニ關シテハ無盡業者ハ認許期間滿了後其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續ス

ルコトヲ得

第三十四條 本法施行ノ際迄六月以上引續キ無盡業ヲ營ム會社カ無盡業ノ免許ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ資本又ハ出資ノ金錢ヲ以テスル拂込金額ニ付第三條ノ規定ヲ適用セス

貯蓄銀行條例中改正法律案

貯蓄銀行條例中左ノ通改正ス

第一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

公衆ノ爲左ノ事業ヲ營ム者ハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ムモノト爲シ此條例ニ依ラシム

一 一回五圓未滿ノ金額ヲ預金トシテ受入ルルコト

二 豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルルコト

三 期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スコトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金錢ヲ受入ルルコト

第六條ノ二 前三條ノ規定ハ第一條第二項ノ預金及受入金ニ付之ヲ準用ス

第七條 貯蓄銀行ニ於テ定款又ハ第一條ノ事業ノ種類及方法ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ代理店ヲ設置セントスルトキ亦同シ